

1. 件名：「泊発電所3号炉の地震等に係る新規規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（181）」

2. 日時：令和6年2月7日(水) 13時30分～16時36分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、山崎安全審査専門職、井清係員、松末技術参与、佐藤技術研究調査官、廣井技術研究調査官

北海道電力株式会社：松村執行役員 他10名

(このうち1名はテレビ会議システムによる出席)

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<<令和6年2月2日に受取済み>>

- ・泊発電所3号炉 基準津波に関するコメント回答（資料1）
- ・泊発電所3号炉 津波評価について（資料2）
- ・泊発電所3号炉 津波評価について（補足説明資料）（資料3）

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	規制庁谷です。
0:00:05	それではヒアリングを開始したいと思います今日の案件としては泊発電所火山影響評価に関するコメント回答。
0:00:13	ということで
0:00:15	コメント回答と、江藤李火山影響評価っていうのを、本編資料補足資料という3、
0:00:22	三部の資料が、
0:00:24	2月2日付で提出されています。
0:00:28	まず資料の方ですね説明いただきたくって、コメント回答の資料から説明をしてもらっていいですか。1回、コメント回答のし、説明を聞いて、
0:00:37	確認に入ろうと思います。
0:00:41	はい。北海道電力松村です。本日のヒアリングよろしくどうぞお願いいたします。
0:00:46	1月24日のヒアリング、
0:00:51	を踏まえまして資料修正させていただき、させていただきましたのでまず説明させていただきます。
0:00:57	説明は仲山の方からですよろしくお願いいたします。
0:01:02	北海道電力の仲山です。まずコメント回答の資料について主に修正変更した点を中心に説明をさせていただきます
0:01:11	まず、3ページ、お願いします
0:01:16	3ページから1章、指摘事項としまして昨年10月、審査会合そして現地調査においていただいた指摘事項、以降のページに掲載しています
0:01:26	4ページから各指摘事項について掲載しております
0:01:32	4ページ上の黄色い箱の中なんですけれども、蓋まるめのところに、今回該当する指摘事項の理由について今回追加をしております。
0:01:42	指摘事項のうち、No.1からNo.7及びNo.9については、火山影響評価全体の評価、または評価の基礎データに関わる、
0:01:51	主に立地評価の判断に資する内容であることから、今回回答させていただきます
0:01:57	その他、No.8、No.10からNo.15につきましては、
0:02:01	個別内容の説明性向上に関する指摘事項であり、今後回答させていただきます。
0:02:07	また今回この指摘のナンバーにつきましては、10月審査会合及び現地調査の指摘すべて通し番号に修正しております

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:16	またナンバーの横に、表の横なんですけれども、立地評価に関するものなのか、影響評価に関するものなのか。
0:02:23	この表のほうに追記をして修正をしております
0:02:27	7 ページお願い。
0:02:31	7 ページ以降、2 章の指摘事項に関する回答概要を示しています。
0:02:36	8 ページ、お願いします
0:02:40	8 ページから各指摘事項に関する回答概要を示しております。
0:02:45	この各指摘事項の回答のページのレイアウトにつきましては、まずこのページ上の箱資料発行の中に、指摘事項の内容を示しています
0:02:55	中段黄色 8 個に、従来の評価や考え方、そして検討方針等を示しています
0:03:02	またその矢印下青箱ですけれども、
0:03:05	この中にはその検討、追加の検討を踏まえた評価については、ケース記載をし、
0:03:11	この中段の黄色の箱と、あと下矢印下の青箱につきましてはわかりやすさの観点から、前回審査会合以前の検討。
0:03:20	と、それ以降の検討がわかるよう、隅つき括弧で見だしをつける。
0:03:25	こととしてございます。
0:03:27	また、8 ページから指摘のナンバー1、設計対応不可能な火山事象を伴う火山活動の評価について、泊発電所の特徴を踏まえて、説明を適正化することとの指摘。
0:03:39	の回答を示しておりますが、
0:03:41	巨大噴火の可能性評価を含む火山活動の可能性評価を実施する火山の条件、今回追記しております。
0:03:48	8 ページの黄色の箱の、前回会合以降の論理展開、
0:03:53	イシタ、武士田丸目になります
0:03:57	設計対応不可能な火山事象が敷地に到達していないと判断される火山のうち、次の状況が認められる火山を対象に、巨大噴火の可能性評価を含む、
0:04:07	火山活動の可能性評価を次
0:04:09	こととしています。
0:04:11	条件二つ挙げております。設計対応不可能な火山事象火砕流が広範囲に分布、
0:04:17	また、そう、その火山事象が敷地方向に数十キロにわたって、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:22	この状況を確認したものととして洞爺カルデラ、支笏カルデラがございますので、そちらを対象にさせていただきます
0:04:30	9 ページなんですけれども、
0:04:32	上から 3 マル目、なお書きになりますが、
0:04:36	イセ香雷電火山群につきましては、火砕流堆積物が敷地近傍に認められることから、現在のニセコ雷電火山群の活動中心である、イワオヌプリ
0:04:46	から、
0:04:47	当該火山噴出物の給源と推定される方、
0:04:50	白樺山シャクナゲ岳チセヌプリに向かって、
0:04:53	活動中心が移動していないか確認することを目的として、念のため、地下構造についても確認して、
0:05:01	このように、ニセコ雷電火山群について、火砕流の敷地への到達可能性評価とは別に、地下構造を確認する目的、明確に示しており、
0:05:10	この目的については本編資料の 4-4 章の方にも記載を追加し、明確化を図っており
0:05:17	12 ページをお願いします。
0:05:23	12 ページから指摘のナンバー 2 の回答を示しております
0:05:28	前回、洞爺カルデラの噴出物の組成の際は、現状が比較的静穏であることに繋がるのか、或いは TP 噴出時と異なることに繋がるのか。
0:05:38	わかりにくいというところがありましたので、それがわかりやすくなるよう、
0:05:42	事実の記載だけではなく、事業者の考えについても記載すること。
0:05:46	このような指摘を受けております。
0:05:48	その点修正しております。18、13 ページの方修正しております、
0:05:53	まず、渡島じゃないんですけれども、隅つき括弧一つ目支笏カルデラの、
0:05:58	活動履歴における検討結果を示しております。
0:06:00	結論としましては、6 マル目に示してます
0:06:03	現在の支笏カルデラは、噴出物堆積から比較的静穏な活動下にあると推定される子
0:06:11	珪長質な組成ではなく、地温も低いことを踏まえると、SP1 を噴出したような噴火を起こす状態ではないと判断しており、
0:06:19	一方で、すみつき括弧二つ目、洞爺カルデラの活動履歴における検討結果、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:25	こちら、上から3マル目から読み上げさせていただきますけれども、
0:06:30	巨大噴火以降に活動を開始した後カルデラ火山は複数回の活動が認められ、噴出物堆積は最大でも14立方キロメートルであり、
0:06:38	巨大噴火による、
0:06:39	噴出物
0:06:40	TPの噴出物堆積に比べ十分小さいことから、
0:06:44	現在の洞爺カルデラはTP噴出時と比較し
0:06:47	静穏な活動下にあるものと推定され
0:06:51	有珠山歴史時代の噴出物の組成は珪長質であるものの、TP2クラベKIIを重量比が低く、SiOII重量比が減少傾向にござい
0:07:01	従いまして現在の洞爺カルデラは、噴出物堆積から比較的西洋な活動下にあると推定されること
0:07:08	珪長質な組成ではあるものの、
0:07:10	SiOつ需要費が減少傾向であることを踏まえると、
0:07:14	TPを紛失したような噴火を起こすような状態ではないと推定さ
0:07:19	またこの支笏と、洞爺カルデラの、
0:07:22	活動利益の検討の際と
0:07:24	この結果を踏まえた支笏カルデラ及び洞爺カルデラの巨大噴火の可能性評価について、15ページに、考えを追加で示しております
0:07:32	15ページお願い。
0:07:38	支笏カルデラ及び洞爺カルデラの活動履歴に関する検討につきましては、根拠となる知見である。
0:07:44	女性の観点での明確な差別化の可否
0:07:47	及び地方に関する知見の有無に認められる際から、
0:07:51	支笏カルデラが過去の巨大噴火時の状態と異なるとの判断がなされることに対し
0:07:56	洞爺カルデラについては推定にとどまっております
0:08:00	しかし、支笏カルデラ及び洞爺カルデラの巨大噴火の可能性評価については、
0:08:06	活動履歴に関する検討結果と、
0:08:09	地球物理学的調査に関する検討結果を総合的に踏まえまして、巨大噴火が差し迫った状態ではないと評価を行う。
0:08:18	また、網羅的な文献調査の結果現状、巨大噴火が起こる可能性があるとする知見は認められておりませんことから、
0:08:25	運用期間中における、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:27	巨大噴火の可能性を示す科学的に合理性のある具体的な根拠はえられてございます
0:08:32	これらのことから、この支笏カルデラと洞爺カルデラの運用期間中における巨大噴火の可能性は十分に小さいと。
0:08:39	総合的に評価して、
0:08:42	この活動履歴の検討に関する修正につきましては本編資料の方、4-2章ですけれどもそちらにも反映をしております
0:08:50	また、15 ページの青箱の下、破線囲み、今回追加しております。
0:08:56	火山影響評価全体のうち、本指摘事項への回答に該当する箇所
0:09:01	及び指摘事項への回答に伴う当社評価への影響については、本編資料の2章、
0:09:07	火山影響評価の概要、21 ページ及び 24 ページ参照。
0:09:12	このように評価全体のうち、指摘回答に該当する箇所や、それに伴う評価の影響、
0:09:17	評価への影響を記載しているホームページ上に小への紐付けを、各指摘事項について記載をし、
0:09:25	16 ページをね
0:09:30	16 ページから、F-1 断層開削調査箇所のスケッチに記載された火山灰の取り扱いの差異の理由に関する指摘及びその回答概要を示しております
0:09:41	この火山灰について、至近に実施した断層調査の結果から対比される堆積物を確認しているか否かによって扱いが異なっていることから、その取り扱いについて、17 ページの表を整理し、
0:09:54	17 ページの表の中、説明させていただきますと、一番左の列に、
0:09:58	当該火山灰が認められる地層を示しております
0:10:03	火山灰会白色につきましては、みさMIS7 か或いはそれより古いか井清層上位の陸成層のうち、
0:10:10	表土直下に認められ、断層調査において、MIS7 以前の堆積物である。
0:10:15	高位段丘堆積物等の上位。
0:10:18	火山ガラスが混在する堆積物が認められることから、
0:10:21	この堆積物に対比されるものと推定しております
0:10:26	一方で、火山灰を海食及び、海食Bについては、
0:10:30	断層調査の結果、高位段丘堆積物等の上位に対比される堆積物が認められないことから、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:37	噴出年代及び給源不明の降下火砕物として取り扱うこととし、層厚評価の検討対象として取り扱っており、
0:10:46	ページ飛びまして 30 ページをお願い
0:10:47	します。
0:10:54	うん。
0:10:58	30 ページから、幌似露頭位置に認められるシルトからなる同心円状の構造を持つ、ほぼ球形の粒子に関する指摘と、その回答概要を示しており、
0:11:09	指摘としましては既往知見において示される風間明氏の特徴との差異を説明すること。
0:11:14	といえの指摘をつけております
0:11:17	前回ヒアリングにおきましては、比較対象として、始良カルデラの噴出物であるけなシノテフラの風間マイ氏用いておりましたが、一般的な火山名刺の特徴はどのようなものか
0:11:28	またこのけなしのTephraの、
0:11:30	風間明氏を比較対象とした理由について今回整理をさせていただいて
0:11:35	34 ページをお願いします。
0:11:46	岩内層上位の砂まじりシルトにおいて認められるシルトからなる同心円状の構造を持つ、ほぼ球形の粒子の成因を明確にするため、次の手順で検討を今回行っております。
0:11:58	三つ手順挙げております
0:12:00	当該層は、①ですね、①当該層はオノサイトウ 2019 における基礎ライト層に対比されることを踏まえ、
0:12:08	スライド火山豆石に関する文献調査を実施し、一般的な火山メッシュの特徴を整理し、
0:12:15	②、
0:12:16	既往知見において風間飯を含むとされている堆積物の薄片監査
0:12:20	を実施し、一般的な風間明氏の特徴を有するか否かを確認しており、
0:12:26	最後、③番、シルトからなる同心円状の構造を持つ、ほぼ球形の粒子
0:12:32	と一般的な風間飯について、それぞれの特徴を整理し比較しており
0:12:38	まず①番の一般的な風間明氏の特徴の整理になりますが、文献調査の結果、
0:12:44	風間マイ氏は次の通りとされております。
0:12:47	二つポチ挙げてます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:49	地学辞典によりますと、火山灰が球場に固結したもの、投信構造なし、表面に細粒の層がある場合が多い。
0:12:59	また、イトウ編 2022 によれば、
0:13:01	細粒の火山灰が凝集してできる数ミリメートル以上の球体以上の粒子は、風間明氏、または火山灰凝集火山礫と呼ばれる
0:13:10	また、鉱物粒子や軽石がん辺等を核として、その周りを細粒火山灰が皮膜上に応急状態粒子は、
0:13:19	どらbまたは、
0:13:20	火山灰付着火山礫と呼ばれる
0:13:22	この両者が区別されずに、風間明氏とされ、これらの堆積物が基礎ライトと呼ばれることもあり、
0:13:29	なお、風間夢香美馬明氏を、
0:13:33	構成するとされている。
0:13:34	火山灰は以下の通り、次の統一されており、
0:13:38	直径 2 ミリ以下の破片から成る火山再生
0:13:41	していない。
0:13:42	また、マグマ噴火ぐらいに、マグマ噴火に由来する。
0:13:47	葛西粒子は、火山がらせんや
0:13:49	結晶変緻密な石室簡便のほか、地方に富む軽石やスコリアが含まれ、
0:13:55	また加えまして相原 1990 におきましては、
0:14:00	後期中新世ミウラ層群の改正堆積物に見られる風間明氏は、前回から比較的浅い海面付近で起きた安山岩から玄武岩質マグマの水蒸気爆発によるものであるとされており、
0:14:13	内部は同心円状構造をしており、角を構成する物質はスコリアまたはがん編鉱物であり、
0:14:19	その周りにはガラス等が認められるとされており
0:14:23	このように、整理した結果ですが、火山灰の粒子の種類に関する記載がなされているイトウ編 2022 を踏まえますと、
0:14:32	一般的な風間明氏は、火山がらせんや結晶変緻密なセキ出願編のほか、基本に富む軽石やスコリアから成る球体状の粒子であり、
0:14:42	投信構造、もしくは加来穂夏
0:14:44	融資の周りを覆う内部構造が認められると判断され
0:14:48	また相原 1990 を踏まえると、風間明氏は火砕流堆積物、もしくは降下火山灰以外の堆積物においても存在し得るものと考えられるが、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:57	火山ガラスが認められてについては、一般的な火山豆石の特徴と同様であると考えられ、
0:15:05	35 ページ、②の検討になります。今日知見において火山飯を含むとされているけなシノテフラの観察結果を示し
0:15:15	上から 3 枚目になります
0:15:17	池野シノテフラに認められる火山豆石は、降下火山灰層中に含まれ、
0:15:22	軽石型、火山ガラスから成る
0:15:25	こういった点を踏まえすと、①で整理しました、風間飯の特徴、
0:15:31	一般的な笠間明氏
0:15:33	の特徴を有するものと考えられるので、一般的な風間店であるというふうに考えて、
0:15:39	このため、この 2 ゴトウ 1 に認められるシルトからなるほぼ球形の粒子との比較対象として、この一般的な風間飯の特徴を有するけなしのテフラの風間マイ氏
0:15:50	を使うことは、
0:15:51	を選定しているという状況になり、
0:15:54	40 ページを
0:16:01	うん。
0:16:03	40 ページから指摘事項のナンバー5、ニセコ火砕流堆積物と火山 6 扇状地堆積物の区分の根拠に関する指摘の回答を示しております。
0:16:13	従来栄養堆積物を区分していた根拠やエックス線CTを用いて、両堆積物の区分について追加検討を実施する理由を、今回明記しております。
0:16:24	まず、隅つき括弧一つ目の、従来の評価になります
0:16:30	老古美周辺で実施したボーリング調査において、れきまじり火山灰の層想定し、
0:16:36	軽石またはスコリアが認められる堆積物については、
0:16:39	老古美地点②に認められるイセコウ火砕流堆積物と宗層が類似することから、井清交換される堆積物に区分しております。
0:16:48	このボーリング調査において、イセコウ火砕流堆積物に区分した
0:16:53	堆積物直下に認められる堆積物については、一般的な火山 6 扇状地堆積物と、
0:16:59	堆積構造が認められることなどですけれども、こういったものは認められない。
0:17:03	そういった状況ではありますが、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:05	次の特徴を踏まえまして、火山 6 扇状地堆積物に区分しております
0:17:10	二つ、特徴を挙げております
0:17:13	当該堆積物に認められる白色のれきは、角閃石等の反証が認められることから、
0:17:19	八本が認められる安山岩ウエキと解釈しており、
0:17:22	また、老古美地点②に認められる。
0:17:25	井清コウ火砕流堆積物にクラベウエキの割合が多く
0:17:30	ゴトウタカヤ良い状況でございます
0:17:33	また、加算族扇状地堆積物としたものと、ニセコ火砕流堆積物の境界は、
0:17:39	食の利益の割合が増加する箇所としてございます
0:17:43	現地調査以降の検討となります。
0:17:46	山ろく扇状地堆積物に区分した堆積物には、次の状況が確認されており
0:17:52	吉田ほか 2017 へという文献において、安山岩質の軽石の中に含まれることがあるとされている嶋城軽石のような液が発泡が認められる安山岩歴と解釈
0:18:03	した白色の利益と同層準に認められており
0:18:06	これ 43 ページ
0:18:08	の、
0:18:10	でございますと、
0:18:12	一番下、震度 8 から 9 名と
0:18:15	オクノ歴が多く認められる箇所。
0:18:18	に、嶋城軽石のような歴、紫の線で示した
0:18:22	そういったものが認められる状況でございます
0:18:25	また、白色の利益なんですけれども、逆級化しているという状況が、確認され
0:18:31	このような状況から、火山 6 扇状地堆積物に区分した堆積物については、当該堆積物に認められる白色のれきが安山岩質の軽石である可能性が考えられる。
0:18:42	白色の液が逆級化していることを踏まえまして、火砕流堆積物である可能性が考えられる。
0:18:48	このため今回、イセコウノ火砕流堆積物と、
0:18:51	火山 6 扇状地堆積
0:18:53	異区分していた量産体制

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:55	並びに、その地層境界について、密度の観点から、内部構造を含め、より定量的に把握するためエックス線CT画像観察時
0:19:04	して、
0:19:05	エックス線CT画像観察の対象としたのは、八本が認められる安山岩歴と解釈しておりました。白色のれきが多く認められ、当該利益が逆級化している。
0:19:16	一、二十期岩内 6 を対象に
0:19:20	41 ページ、区分の見直し結果を示しておりますが、こちらについては前回のヒアリング時から変更はござい
0:19:27	ません 46 ページをね
0:19:34	46 ページ指摘のナンバー6、ニセコ火山噴出物の分布に関する指摘の回答概要になります。
0:19:41	このうち、前回ヒアリングにおいて説明しました通り、47 ページに示す、火山地質図
0:19:47	のニセコの分布、イセコウノ火山噴出物が分布されている範囲の東側の範囲、
0:19:53	こちら精緻化しておりましたが、今回さらに精緻化を行っております
0:19:58	49 ページお願い
0:20:05	49 ページ、火山地質のうち、ニセコの火砕流火山噴出物の分布範囲の
0:20:13	東側の範囲の拡大図を示し
0:20:17	前回のヒアリングにおきましてはこの東側の範囲の、
0:20:20	Bさん、B7 ボーイング
0:20:22	に火山 6 扇状地堆積物が認められる。
0:20:25	また、文献イシダ他 1991 に示される火砕流の分配の縁辺部であることを踏まえまして、
0:20:31	東側全体を飾る扇状地堆積物の凡例、薄いピンク色で示しております。
0:20:37	今回このBさん、B7 ボーイングにつきましては、複数の尾根から構成される火山 6 地形の北東部に位置しておきまして、
0:20:45	火山 6 地形は水色の矢印で示す、ホンカも江川を境に、
0:20:51	地形的単元が異なることを踏まえまして、
0:20:54	当該河川より北東側については、イセコウノオカtheオク扇状地堆積物と表記することといたし
0:21:00	一方川挟んで、南西部については、イシダほかにおいて、
0:21:05	火砕流堆積物が分布されているという範囲。
0:21:08	なりますので、こちらの地表付近には、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:10	この火砕流堆積物が分布するものというふうに加え、
0:21:14	変わらずに、イセコウ火砕流堆積
0:21:16	表記
0:21:17	で示しており
0:21:18	オレンジいろんな
0:21:20	またこの修正に伴いまして、59 ページに示しています断面図にも反映を行って、
0:21:28	50 ページをお願いします。すいません。
0:21:35	50 ページから、ニセコの火砕流堆積物の閾値への到達可能性評価結果を示しています
0:21:42	本評価については、文献調査結果、地質調査結果、それらを踏まえた検討、
0:21:48	下を、給源から敷地方向
0:21:51	として、
0:21:51	給源から敷地方向以外と。
0:21:54	あと、全高校に分けて整理して、それらから、評価していることを明確にここに示して、
0:22:01	断面図で言いますと、55 ページ
0:22:03	になります。まず給源から敷地方向。
0:22:07	の検討になり
0:22:09	この 2、
0:22:10	西来条項というのは西側の範囲になりますが、この範囲においては、当社地質調査、
0:22:15	H29 岩内-1 ボーリング等の結果、石田ほかに示された火砕流堆積物の分布範囲にイセコウ火山噴出物火砕流堆積物の分布が認められ、
0:22:26	当初地質調査における井清コウ火砕流堆積物の最大到達地点、こちらが、一、二十級岩内の 5 地点になりまして、給源からの距離が 10.6、
0:22:36	2 アリマ
0:22:37	こちらについては、このイシダ他における火砕流堆積物分布範囲の縁辺部に位置することから、
0:22:44	これらは整合的でございます
0:22:47	最大到達地点を超えた当社地質調査地点においては、井清コウ火砕流堆積物が到達していた場合に想定される層位
0:22:55	当該堆積物は認められており
0:22:58	給源から敷地方向以外になります。57 ページ、こちらが中央の範囲

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:06	この範囲におきましては、ニセコ火砕流堆積物が到達していると考えられる位置と、石田ほか 1991 における火砕流堆積物の最大到達 1
0:23:17	給源からの距離 11.3 キロ、概ね整合的でございます
0:23:22	ましてええと、50、
0:23:24	9 ページの、
0:23:26	東側の
0:23:28	はい。
0:23:29	の断面図、示しており
0:23:31	この範囲につきましては、この北東部におきましては、ニセコ火砕流堆積物が分布しないという状況下
0:23:41	これら、方向、全方向合わせた検討の結果ですが、
0:23:46	文献調査、そして地質調査に基づく火砕流堆積物の最大到達距離は、それぞれ 11.3 キロと。
0:23:53	10.6 キロと同程度であり、推定される給源から敷地までの距離 17.2 キロと比較して小さい所
0:24:00	イシダ他 1Q1 に示された火砕流体制
0:24:03	と、
0:24:03	イセコウノカセイケダ井清
0:24:06	が認められる、当社地質調査地点は、ニセコ雷電火山群の笠野口形に、
0:24:11	急に
0:24:13	このような状況から、ニセコの火砕流堆積物は敷地に到達しないというふう判断しており、
0:24:19	またこの結果を可視化するために、今ご説明した
0:24:24	断面図になります。
0:24:26	こちらについては本編資料の 4-1 章の方にも掲載を、
0:24:31	なお、51 ページ、この評価に、
0:24:34	用いた地質調査結果、整理した表を示していますけれども、断面図の作成に用いた、オカリティの 3 番、ロカリティの 4 番。
0:24:44	地点なんですけれども、こちらについても、補足説明資料の方に、露頭写真、掲載をして後
0:24:51	11 ページお願いします。
0:24:58	61 ページ、指摘のナンバー 7 の回答概要を示し、
0:25:03	火山ガラスが少ないことなどから、主に火山砕屑物からなるものではないと評価した堆積物のうち、条件①、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:11	液を含まず、細粒な、そう想定するもの、かつ条件②、
0:25:16	スケッチまたは十条図の早々に、火山灰と明記されているものに該当する堆積物について、重鋳物も含めた総合的な評価を行っており
0:25:25	62 ページ
0:25:27	こちらには条件に該当する堆積物、神恵内M-3 ボーリングの堆積物になりますけれども、
0:25:32	評価結果示し、
0:25:35	堆積物を示していて 63 ページに評価結果示しています。
0:25:39	63 ページ、今回、この評価結果に、条件①及び②に該当しないもののうち、重鋳物に関する分析結果を有しているものについては、
0:25:49	流出等について確認している旨を記載しており、
0:25:53	上から 3 マル目になります。
0:25:55	条件①に該当するが、条件②には該当しない、堆積物については、
0:26:00	降下火砕物以来である可能性は十分小さいと判断しておりますが、
0:26:05	重鋳物に関する分析結果を有しているものについては、明瞭な流出の増加が認められないこと等についても確認して、
0:26:13	今後説明予定としている、個別内容の説明性向上に関する
0:26:17	に対する検討におきましても、主に火山砕屑物からなるものかの判断に当たりましては、火山ガラスだけではなく、重鋳物に関する分析結果も含め、総合的に評価を行う旨、
0:26:29	このページ、一番下のマル、またというところに記載をしており
0:26:34	すいませんコメント回答の説明は以上となります
0:26:46	井谷です。
0:26:48	確認をしていきたいと思えます。
0:26:54	私の方からなんですけども順番に、前からやっていきます。
0:26:59	まず 8 ページ 9 ページなんですけれども、
0:27:05	なんかね 9 ページ
0:27:08	これを、
0:27:10	ここで書いてるのって何ですかね設計対応不可能な火山事象の敷地への到達可能性評価の、
0:27:18	これ結果なんですかね、えっと、
0:27:22	ここで書いてるのがなんかねよくわかんなくて、いきなり一つ目の丸で、
0:27:30	洞爺と支笏を
0:27:33	抽出した。
0:27:35	ていうのから始まって、あれこれはこうこうこうだから、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:41	エコ、前回と前回と変えて、こうこうこういうことをやってこういう結果だからこうなったんだっていうその辺の、
0:27:48	何ていうんすかね。
0:27:50	ストーリーがこう見えないんですけどもちろん僕やってることはわかっているつもりです。本編資料見なさいということで、本編資料見たらまあまあそんなふうになってると思うんですよね。
0:28:00	あとここに何か書くものとして、
0:28:03	こういうことが何か、
0:28:04	いいのかなって言うてみたらこの一つ目の丸と二つ目の丸が、
0:28:10	何か、まず、
0:28:12	逆なんじゃないのか。ホームページ資料でいうと、全部見てみてこれらは到達していなかった。ただし、2、
0:28:20	遠矢富樫湖等へは到達してる可能性否定できないし、支笏はそれと同じ。
0:28:25	その辺のね話がね。
0:28:27	ここ見ててもね何かよくわからない。
0:28:31	もう一つは最初のコウ0であるのはか、火山活動の可能性評価っていうのこれ多分、ガイドとかを見て、この言葉を使ってるんだと思うんですけど。
0:28:42	これから始まると。
0:28:44	いや、巨大噴火の。
0:28:48	話っていうのが、
0:28:52	どこでこのこれが巨大噴火として選ばれて、要するにコウ、これが選ばれるってことは、
0:28:58	クッタラ登別は選びませんっていう話の話が変わってるんだけど、
0:29:03	その辺がね、何かここねストーリーとしてね。
0:29:07	何かうまくこう書けてないんじゃないかなっていうふうに、
0:29:10	思ったんですけども。
0:29:13	ちょっとこの読み方を、
0:29:15	何か、
0:29:17	追加説明あれば教えてください。
0:29:24	衛藤電力の渡邊です。はい。こちらの指摘No. 1の、
0:29:28	回答として、資料構成を見直してこういう流れなんだよっていうところで、少し重きを置き過ぎているがゆえに谷さんおっしゃるように、例えば9ページの、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:40	一つ目の墨つき括弧の中で、洞爺と支笏の、
0:29:44	到達可能性としての評価はどうなんだって多分結論が抜けちゃって いて、
0:29:50	今、
0:29:51	到達したか否かに着目し、以下の2火山を次の
0:29:56	火山活動の可能性評価の方に振っ流していきますっていう、全体の流 れだけを変えてしまっていて、そうしてしまうと、二つ目の丸の11火山 は、
0:30:05	到達可能性として十分小さいっていう評価書いてあるんですけどじゃあ 支笏と洞爺はどうなってるのっていうのが見えなくなってしまうって なで確かに言われて思いましたのでまずはそれぞれのすみつき括弧の中 での、
0:30:18	評価がどうなっていて、ここだと主コスト等への到達可能性、過去の巨 大噴火に伴う
0:30:24	火砕流の到達可能性の結果が見えてこないの、
0:30:27	そこをまず書いてその上で、そういう判断をしているので、次の対象にし ますとかって分けて書いた方がいいのかなというふうに感じました。
0:30:37	等とですね、火山活動の可能性評価っていうのが、ガイドの言葉に忠実 に書いてるがゆえに、何をやろうとしてんのかってのは見えづらい記載 なのかなと思いましたので、
0:30:49	その辺りをもう少し、実際のやっていたこと、今やっちゃおうとしてるこ と、巨大噴火というキーワードが特に、
0:30:58	大事だと思うんですけども、実作業がどういうことをしてるのか、過去と 今回含めて見えるようにもう少し適正化したいなと思います。以上です。
0:31:07	それからタダ会合のこととかも考えるとね、いやいやその内容は、ここに こうまとめるんですよっていう話であれば、
0:31:16	4.1にこう書いてるんだけど、こういう流れでやってるんですっていう だけの、
0:31:23	何ていうか、本当の概要的なことだけを書いてもいいのかもしれない し、何か多分これ中途半端なんですよね。
0:31:34	うん。
0:31:39	そうですね中途半端で多分おっしゃってるのは、
0:31:41	1個目の丸が流れ等2個目の丸の11火山は到達可能性の評価として こうだって、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:47	書いてるところがバランス取れてないとかそういうところかなと思ったので、
0:31:52	流れに価格の流れとして名割り切って書いてしまうし、
0:31:56	それぞれの項目で何やってんのかまで書いた方が多分読み物としては他に飛ばなくていいので完結していいかなと思ってますので、もう少し考えてみたいと思います。以上です。
0:32:33	この辺のところは1回見てもらうのと僕ねもう一つ引っかかったのが、
0:32:39	薄二つ目のすみつき括弧の二つ目と三つ目。
0:32:45	洞爺については、
0:32:46	支笏についてはって書いてあるんだけど、
0:32:49	これなんか微妙に言い回しが違うんですけど、
0:32:54	これなんで何ですかねやってること同じなのかなって思ってたんだけど、
0:33:05	北海道電力の渡部です。やってる内容としては一緒なんですけど、洞爺カルデラの場合は、
0:33:11	過去の巨大噴火に伴う火砕流が敷地に到達した可能性を否定できないっていう入りがあって、
0:33:18	否定できない状況で、
0:33:21	じゃあその巨大噴火の可能性が運用期間中にあるのかっていう評価をしていっています。
0:33:27	巨大噴火が否定できるので、
0:33:29	それ以降の最大規模で見たときに、その到達彼女は十分小さいっていう流れなんですけども、支笏の場合は、そもそもSPF得る支笏の火砕流が敷地に届いていないという判断を、
0:33:42	入れてるんですけども、だけど巨大噴火の可能性もやるし、それ以降の最大でも見ますっていう違いを入れたかったというところですよ。以上です
0:33:58	はい。事実確認はできました。そういうことですね。
0:34:17	ちょっとこの辺は、そのさわりの部分の論理展開なので、
0:34:23	でですねえと次がもう次にもうどんどん進んで、何かあったら言ってくださいね規制庁側の、
0:34:29	受
0:34:31	12 ページのコメントなんだけれども、
0:34:36	これ活動履歴について、前回ヒアリングで確認したコウ、ちょっと日本語の仕事述語の関係とか、関係がよくわかんなかったけ。
0:34:48	ところが、この文章だったら言いたいことがわかるようになってきました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:53	ですね。
0:34:57	そうですね。
0:35:00	ここでね僕ちよっと思ったのが、
0:35:06	この活動履歴からはね、
0:35:09	SPワンの紛失をしたような家噴火を起こす状態ではないと、判断してるわけなんですけど。
0:35:16	何かガイドの言葉を言うと巨大噴火が差し迫った状態である事実があるのかないのかと。
0:35:22	というようなことも、書くんだったらそういうことも書くのかなと思ったんですけど。
0:35:27	これって結局
0:35:29	例えばね、投与もね、
0:35:31	噴火を起こすような状態ではないと推定されるんだけど、
0:35:39	何かこうこういうコウ活動履歴の観点からは差し迫った状態である事実は、
0:35:44	あったんですかなかったんですかという、
0:35:48	なかったんですよね。
0:35:56	いかん。なんかその、その辺のね、この、余りにもSPワンを紛失したような噴火を起こす状態なのかどうなのかっていう記載。
0:36:05	ガコウメインに書かれてるっていうのが、そうそういう説明でいいのかなというのをちよっと思ったですね。
0:36:13	もう一つはね。
0:36:16	結局塔屋に関しては、
0:36:18	基本は全く触れないんですか。
0:36:23	地温勾配。
0:36:30	北海道電力の渡部です。
0:36:32	遠矢の場合は、SP支筋と比べて、地温に関するTP紛失時の、
0:36:39	地下深度の温度の推定っていう知見が、
0:36:44	乏しいないかなと思ってましてその観点で物を言うことが難しいのではないかと思って、
0:36:50	このような差別化仕事はしてるっていう状況です。以上です
0:36:53	谷です。そういうことですね。それをね、データがないんだよっていうのは本編とか入ってますか。
0:36:59	何でここ、こっちは何でこっちは、
0:37:04	地温勾配の話をしてこっちの、こっちはしないのかっていうのが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:08	都合がいいところだけをしているのかそれともこちらデータがないからしていないのかとか、その辺の差がね、これ、
0:37:16	見るだけではちょっとわからなくてっていうので、ちょっと事実確認をするんですけど。
0:37:21	データ自体がないっていう。そうですね北海道電力の渡部です。網羅的文献調査っていうものをして途中でピックアップしてきて、評価に資するっていう条件で縛って、
0:37:32	文献入れてきてるんですけどもそういう観点では、
0:37:35	資するようなデータとしてはないっていうのは確認してましてそれをし、厳命か言葉として入れてるかというそういう状態じゃないので確かにこっちで和智をやっててやってないのなんでって見えてしまう部分は、
0:37:46	言葉で補ってあげたいと思います。以上です
0:38:03	ですね 15 ページがねえ。
0:38:07	またねちょっとわかりにくかったんですね。わかりにくかったけど言ってることはわかったんですけども。
0:38:13	ただ何か
0:38:17	ここ書いていることは支笏と洞爺の検討、活動履歴の検討は、
0:38:23	前者は何かより最もらしいことが言えそうだけど、後者はまあ推定に留まっているんだと。
0:38:30	しかしで始まって何、何とかやっている。
0:38:36	しかし、
0:38:38	何かこういう書き方をする必要あるんですかね、どっちにしてもこれあれなんですよ。
0:38:43	総合的な判断はするっていうことなので、
0:38:48	結局のところは一つ目の丸ってあんまり、
0:38:52	その差別化があるけれども、
0:38:57	差別化わざわざこう示しつつ、
0:39:01	その総合的な評価を行っているっていうような、
0:39:04	何かそんな書き方をわざわざ、
0:39:06	しなくてもヤノはわかりにくくなっていうだけで、
0:39:21	ですね北海道電力のワタナベすみませんこの 1 個目の丸、つまり 15 ページの一つ目のマルを入れた理由が、10 月 6 日の審査会合の指摘で軽重をつけた上で、
0:39:33	明確に論拠を示せと言われたときに、推定と判断って二つの言葉を我々使ってるんですけども、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:40	じゃあその推定と判断の軽重って何が効いて、
0:39:43	使い分けてるのっていうことを説明すべきなんじゃないかなと思って一つ目の丸を入れたんですけども。
0:39:50	前の多分 13 ページで、その心っていうのは、十分読み取れるよっていう考え方も当然あるかと思しますので、あえてここを開設入れなくても、
0:40:00	活動利益がカツラ駅でこうやってるプラス可能性評価自体は、地物も含めて総合的にやっていますよって淡々と書くっていうのも確かにその通りかと思しますので、そのような修正をさせていただければと 생각합니다。以上です。
0:40:13	I谷です。説明の内容はわかりました。はい確認できました。どんどん行きますね。
0:40:20	でね、1067 ページが、やっぱりね僕もう何回も言ってるんだけれども、これ結局何か
0:40:28	何、17 ページで言うと会食Aを解職Bっていうのを、
0:40:34	なぜ給源不明としても扱うんですよっていう、
0:40:40	そこのね言葉がね。
0:40:42	当会合でも言った通り、
0:40:45	現在の調査で対比できるような地層で確認できるかできないかが違いなんだっていうことが、
0:40:54	よ、ここの記載で皆さんわかるんですかね。だってこれ、あれですよ。
0:41:00	この表を見るとね。
0:41:04	解釈の根拠となる断層調査結果っていうので説明してんですよね。
0:41:11	僕らわかりますけど。
0:41:12	断層調査結果って何ですかって、さらに表土直下のやつは、
0:41:17	こういう、こういうMIS7 の上位に火山ガラスが混在する堆積物が認められる。
0:41:23	だから何なの。
0:41:25	で、次の行、ABに関しては、こういう段丘堆積物の上位に対比される堆積物が認められないって、これ。
0:41:33	多分このABがこういう段丘堆積物、MIS7 なんですよ。
0:41:40	以前なんですよとか、そういうコウちゃんとしたコウ。
0:41:45	なんか、
0:41:47	予備知識がないと、今小の説明だけを聞いてもね。
0:41:51	まずわかんないですね。
0:41:56	何か公務文書で書いたらいい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:00	どうかなと思うんですけどね。
0:44:02	はい。
0:44:03	藤。はい。確認をできましたので、
0:44:07	もうどんどん次行きますけど、20 ページ以降がねやっぱりこれ、
0:44:14	やっぱりここで何を言うべきなのかっていうのが、
0:44:18	ちょっと僕読んでてわかんなくて、北海道電力としてはこれ、最終的にこの幌似露頭 1 については、
0:44:27	何を問題意識として持ってて、何をここで示さなきゃいけないって思ってますかちょっとすごい簡潔に答えてもらっていいですか。
0:44:38	電力の渡部です。問題意識としては、そもそも火砕流の堆積物っていう評価を自社としてしてしまっていたこと、これに加えて、知見、文献において、火災の可能性というのが提示されている。
0:44:50	事、それを踏まえますと、火山影響評価上、この露頭というのが非常に重要な火山事象に伴うものとして取り扱うか否かっていうことの判断がしっかりと必要になってきますので、
0:45:01	そこを解決しにいきたいというところですよ。以上です
0:45:07	であれですね。ちょ、指摘事項に、
0:45:11	基づいてというか指摘事項に対応しているいろいろ調査したけどこれ火砕流堆積物じゃないと
0:45:20	それをコウ、
0:45:23	橋と言ってる場所はどこになりますか。
0:45:36	どう電力の渡部です。22 ページお願いしてよろしいでしょうか。
0:45:43	はい。
0:45:44	ゴコウが、先ほど問題提起した部分っていうのが、今前段として書かれていないのでそれ多分追加してあげた方がより見えやすいかとは思ってますけども、ごめんなさい。はい。
0:45:55	まず赤色の火砕流の堆積物と自分たちで、
0:45:59	当時評価していたものを成因と供給元は何だったのかっていうところを、角つかこの一つ目で書いてます。
0:46:06	検討として、火砕流ではないという判断をしているその理由を箇条書きで三つほど下に落とし込んでいます。
0:46:13	これは何なのか、成因は何なのかというところをその下に記載してまして当社としては斜面堆積物という判断をさせていただきます。
0:46:21	また赤色の火砕流堆積物の下部に対比される砂まじりシルトという部分がその次に墨つき括弧でございまして、これが既往知見等で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:31	木曽来人層というような可能性を示唆されていたところですので、これについて、大きなくりで火砕流ではあるのかないのか、違うという判断をしましてでは何かというと、
0:46:42	静穏な環境下の水セイノ陸上堆積物であろうという判断をしたと、というようなものとなってございます。以上です。
0:46:52	うん。
0:46:53	そういうことなんでしょうけど、何かね。だから、
0:46:58	コメントを回答しますよね一つ目が、露頭をちゃんと見てくださいよと。
0:47:05	何でこんなことしなきゃいけなくなったかということ、
0:47:10	新しいゴトウが出てきたりして、窒息分が、なんか若干こう当時説明していたものと違って来たんですよねということですよ。
0:47:24	二つ目の歴史ウエキの、
0:47:27	形状っていうのはあれですよ。
0:47:29	救急元をどう、
0:47:31	供給元はどこなんですかっていう話になってくると。
0:47:36	で、
0:47:37	名刺の話になってくると。
0:47:39	これ、名刺って何どこです。
0:47:42	説明しているかということ、
0:47:44	砂まじりシルトの成因なんですよ。
0:47:47	これね。
0:47:50	うんね。
0:47:51	どこがどこのことなのかね。
0:47:54	すごくわかりにくいんです。
0:47:57	で、何かねえ、多分僕は模式図みたいなのかを
0:48:01	出しつつ、
0:48:03	だって、これぴ空いと、
0:48:05	どこのこと言ってるのか、どこで見ればいいんですかとかね。
0:48:12	で、最終的にはこの
0:48:14	か、いや、何て言うのかな。
0:48:18	ここは、火砕流の堆積物っていう堆積物と、その下の砂まじりシルト、
0:48:25	ん違うのか。
0:48:26	砂まじりシルトも火砕流用堆積物のうちの一部って言ってんですか。
0:48:32	の、
0:48:36	野中の株、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:39	野中の株
0:48:46	じゃ火砕流堆積物はこうであるっていうのをさ、説明してその内の砂まじりシルト層はこうであるって言うてる。
0:49:09	これね、多分ね、
0:49:17	わかんなかったんすけど火災で訴え、
0:49:20	器物の下部っていう言い方は、
0:49:25	そのうちの株なのか、そののさらに下部なのかっていう、多分日本語の問題でこれね、すみません話飛びますけど、
0:49:34	別のところに行くと、
0:49:36	岩内層の上位のとか、そんな話も出てくるんですよこの、
0:49:40	多分。
0:49:43	何の地層のことを言うてるのか。
0:49:46	すごくわかりにくいんです。で、多分ね。
0:49:49	というと、難しくって、
0:49:52	うん。
0:49:54	で、これまでの説明ではこうだったんだけど、こういうのが出てきてんです
0:49:59	その中には、
0:50:00	火山豆シノように見えるようなものも指摘されているんですよこのか、いや、それがよくわかんないすけど私も
0:50:08	論文での場所ってのは特定できないっていうことなので、少なくともでも北海道電力としては、ここの部分に名称のものがあるんだよっていうのに、
0:50:17	それはここにあるんだよ。
0:50:19	で、そこは記載の充実化したんだ
0:50:22	実質の。
0:50:25	いたんだ
0:50:31	北海道電力の渡部です。はい。今ちょっと写真を使ったりして位置関係やってたんですけど、
0:50:36	おそらくそういう意味のガイドとしてはもうし傷を使って、
0:50:40	ここだっていうのを示してあげる方が、
0:50:44	わかりやすいというふうに考えましたので、
0:50:46	模式図を追加させていただきたいと考えてございます。以上です。
0:51:00	井谷です。
0:51:04	僕も根井 22 ページで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:17	赤色の火砕流の堆積物の説明の時に言ってるのが、火山ガラスの粒子数少ない、これアノ砂まじりシルトもそうですね。
0:51:26	二つ目。
0:51:28	供給元は複数である。これは、上はあるけど下はない。
0:51:34	それはそれでいいんですね副拳シノ砂まじりシルトは。
0:51:40	これを並列で見ちゃ駄目なんですか。僕思ったのは砂まじりシルトで、軽石が認められないって言ってるんだけれども、
0:51:47	赤色の火砕流の方にはあるんですかいないんですかっていう。
0:51:51	いう話が、
0:51:53	わかんなかったり、
0:51:56	して、
0:52:02	砂まじりシルトは、
0:52:04	供給元は複数ではない。
0:52:09	北海道電力の渡部です。これ植野火砕流の堆積物としていたものを、大きな相双でいくと、砂礫層と礫層があって、
0:52:20	笠井李様の堆積物と下部は須田まじりシルトっていうそうそうなんですか、
0:52:25	それらの宗層に対して、
0:52:28	適切な分析なり観察なりを選定して、
0:52:32	それぞれ行っていると考えてございまして、例えば砂礫層と礫層というものについては基本観察として露頭観察、
0:52:40	共通して、下部とも共通してできることとして火山灰分析、
0:52:45	砂礫層と礫層っていう、そうそう見たときに、レキシウレキの形状調査は当然実施すべきだと考えてそれをやっています。
0:52:53	また、現地調査で、
0:52:55	軽石様にも見える歴が白いれきがあるよねというご指摘も
0:53:01	礫層砂礫層についてはご指摘受けてますので、それを対象とした薄片観察を実施しているという状況です。
0:53:07	加えて、
0:53:09	歴史綱そうそうですので、火砕流の面つきの可能性、課題にている可能性があるという観点でいくと時価測定というものも、今回実施して、
0:53:18	また今日歴が近くに認められているので、全がん化学組成をしているということで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:23	その宗層に対してやれる限りのアプローチをそれぞれ使い分けてやってございまして下部のシルト層に関しましては、既往の試験でいくとやはりピポライトと、
0:53:33	いうものであったり、軽い仕様のものが認められるというお話が既往試験上出てくるので、基本の露頭観察、火山灰分析、
0:53:43	このび空イトウを対象とした薄片。
0:53:45	薄片にとどまらず、磯来人一般的な知見としてのプライドはどのようなものかという整理ということで、それぞれのそうそうなり、既往知見で言われてることに対して、
0:53:55	やれる。
0:53:56	調査観察分析を選んで選定しているというような状況でございます。以上です。
0:54:14	はい。
0:54:17	ちょっとね、
0:54:18	またよくわかんなくなっただんですけど、火砕流の堆積物の中には、礫層砂層、そして下、一番下の砂まじりシルト層がありますと。
0:54:27	いう話でいいんです。
0:55:24	ちょっと今の渡部さんのね説明を聞いてもう1回こう見るようにしますね。
0:55:29	でですね、何か前から、前も言って何かちょっとしつこいかもしれないですけどこれ何かね。
0:55:36	どこで何を言ってるのか確認させてくださいこれ比較的短い時間で堆積したと判断されるのは、
0:55:43	何、何でなんでした。
0:56:24	すいません。今、ご指摘いただいたところなんですけども、簡単にまとめているところと言いますと156ページ補足説明資料156ページをお願いします。
0:56:46	T2 マル目のところに、ポッチが五つ繋がってるかと思うんですけども
0:56:52	一つ目。
0:56:54	になります加来歴
0:56:55	から学歴、そして無層理な気質からなっております決して市場那須っていうところから、
0:57:02	イベント堆積物用のそうそうを示しておりますので、
0:57:06	比較的短い時間で堆積したものっていうような記載をしております。
0:57:11	うん。わかりました

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:13	じゃあ次はね、
0:57:16	古平層由来と考えられる、れき岩相が認められることこれはどこなんです すか。
0:57:38	すいません。149 ページをお願いします。
0:57:50	こちらに 20 万分の 1 地質図を掲載しておりますけども、露頭観察の結果、
0:57:57	としまして眼力が含まれているという事実がありまして、
0:58:02	ではこの泥岩力がどこから来る、来ているのかというものを確認します と、地質図 9 で言いますと、
0:58:08	藤堀尾と 1 というふうに取り出しをしております赤丸のすぐ、
0:58:14	北東側に FM というものが、
0:58:18	と記載されております、
0:58:21	そこに凝灰質ではありますけども凝灰質泥岩
0:58:25	アース、虚血性の了解が泥岩で祈願等々のそうそうが分布しているとい うものが記載されておりますので、
0:58:32	ここ、
0:58:34	この付近から届いたものではなかろうかと。
0:58:37	いう記載をしてございます。の明示的に記載も何か 140 何ページかに あるんですかね。
0:58:45	そうですね記載としましては、緑の、
0:58:50	引き出し箱で引き出しをしている。
0:58:52	本当になります。そうなんだけどね。いや D がありましたよと。
0:58:56	近くにこういうれき泥岩層がありましたよ。
0:58:59	ていうのを書いてるだけであって、
0:59:01	何でこれが、泥岩があったらそれすなわち古平層由来なんですとか いうのがねなんかねいまいち分かんなくて、私が言いたいのはねこ れ。
0:59:11	そもそも 22 ページで、
0:59:18	どこ見りゃこれを書いてあるんだっていう、
0:59:21	その、そこが何かもうよくわかんないですねって言ってルーので、
0:59:49	私たち読んでいってて、これは何なんだろうなってを探して、
0:59:54	行くのにすごく時間がかかるような資料構成になってて、
0:59:59	今の古平層だって、何とこうこうだからこの歴は古平層だと思ってるん ですよっていうのをどっかにこうなんか入れてもらわないと、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:11	で、詳しくは例えば補足でいいかもしれないすよ。ただ、ただコメント回答って言うてこう書いててこれが根拠になってるんだってという部分については、
1:00:21	もうここで答え切ってくれた方が、それは効率的に審査進むのかなというふうに思いますので、
1:00:28	その辺のね資料の作り方をお願いします。
1:00:39	でね。
1:00:41	値ですね。
1:00:43	この最後の、
1:00:45	すみませんねなんか文句ばかり言ってるみたいで 22 ページの、
1:00:48	石積み月の 1、一つ目のやつの数、三つ目のポツ、丸で、なお、
1:00:54	ニセコ雷電火山炉。
1:00:57	火山 6 には、
1:00:59	同様のナカゾノ認められるが、以下の点を踏まえると、当該
1:01:03	堆積物は、
1:01:05	火山 6 扇状地堆積物ではない。
1:01:10	当該地点は、火山 6 地形に位置して、
1:01:14	並行用離島の堆積構造が認められない。
1:01:19	この、
1:01:20	並行用RIの堆積構造が認められないのは、どこの話をしてんだ。
1:01:25	当該堆積物、
1:01:29	こちらに記載している、併合用離島の堆積構造が認められないというのは上部壁面で認められている、赤褐色を呈する砂れき層及び出来層の
1:01:40	早々になります。
1:01:48	すいません、具体的な場所。
1:01:50	を言いますと、23 ページに示している。
1:01:54	上部壁面写真っていうのが、と記載しているんですけども、
1:01:58	その左側に引き出しをしている。
1:02:01	3 枚の
1:02:02	基礎に対して、ここでは、閉校よう離島の堆積構造が認められませんので、これらは、
1:02:10	火山の扇状地堆積物ではない。
1:02:13	としております
1:02:15	火山 6 扇状地堆積物には平行よう離島があるんだけどっていうことですね。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:20	おっしゃる通りです。
1:02:22	なんかね多分その辺がね、これだけじゃわかんないんですよ。で、
1:02:27	それはこっちの 23 ページの右の図の、
1:02:31	砂まじりシルトも含めて言ってるんですけど。
1:02:35	これ何か容りがあるんじゃないのかとかそういう話は現場でなかったですか。
1:02:48	日向委員。北海道電力の渡部です水平な堆積構造があるっていうような説明を現地でさせていただいてたのは、
1:02:55	火砕流の堆積物の下位にいる岩内層、
1:02:59	そのの、
1:03:01	上部がですね、水平な堆積構造見えてて、土壌化してるような状況を見ていたのでその話はさせていただいたんですけども、火砕流の下部に対比されている砂まじりシルトの中には、明瞭な
1:03:14	堆積構造というのはあまり肉眼では確認できないというふうに考えてございます。以上です。はい、わかりました。じゃあこれはどっかに、こういう堆積物も含めてコウよりはないんですって。
1:03:24	いうことで、
1:03:25	何か見たら規制あるんですね。
1:03:29	それともここで説明しているんですか。
1:03:32	ここで説明してます
1:03:39	ちょっとあれですか、取ってつけたような感じがします。
1:03:42	なお、
1:03:45	主張されたことを言ってくれたらいいと思います。一応主張したいこととしては、何で直でこれが出てくるのっていうところでいくと、斜面堆積物等判断をしたときに、
1:03:56	ニセコ由来ではあるけど、近くで火山の扇状地堆積物って確認してるっていう状況があるので、それと似たようなものでは消してない。
1:04:05	火山 6 になるようなものではないよってことを最後に入れたっていうような思いで書いたんですけども。
1:04:12	ちょっともう少しこの辺、修正します。以上です。
1:04:24	はい。あれですねここでゆ言うこととしては、これは、供給元が違うんです。
1:04:31	あそこねえ。
1:04:36	火砕流堆積物ではないと判断。
1:04:40	供給元は、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:42	キュウゲンは、
1:04:47	供給元は複数であることから、こうであると思うんだ
1:04:51	これもうちよっと何か浮き出るようにその主張はさしてくださいね。
1:04:57	わかりました。説明を。
1:05:12	当該堆積物中の安山岩歴は、
1:05:16	古宇川層等が由来っていうのは何でなんだ。
1:05:33	こちらの露頭では、見られる安山岩っていうのが、
1:05:39	ニセコ
1:05:40	雷電火山群の、
1:05:42	力と比べて、
1:05:45	化学組成が異なるということが、られてまして。
1:05:50	ではこの安山岩はどこから来たのかっていうところで、東地スズエ含みますと、
1:05:55	また後背地に、
1:05:57	古川さんをというのが記されているので、こちらではなかろうかという、少し推定含みなんですけども、
1:06:04	そういうことを記載しております。
1:06:15	はい。丁寧に書くと。
1:06:17	丁寧に言うとニセコ雷電由来ではないことが化学組成から、
1:06:23	確認されて、その他としては古宇川層が、
1:06:28	候補になるよということですか。
1:06:37	通って、
1:06:47	北海道電力の渡部さん。
1:06:50	ここの指摘回答って、特に幌似に関する部分ってかなり検討が多岐にわたっていて、
1:06:59	気持ちとしては、補足説明資料に丁寧にエビデンスをつけて紐づけしながらフルスペックで流してるっていう気持ちがございます。
1:07:07	ここの指摘回答は、あまり重くならないように、
1:07:11	問われたことにダイレクトに答えられるエビデンスデータを載せながら言いたいことを流していくっていうような、ある種、ダイジェスト、かつ、
1:07:21	指摘に対応した結果が、そのほかコメント回答で見れるようになっていうところを意識して作ったものだったんですけども1個1個見ていった時にじゃあこれはどこに書いてあるのってなると、
1:07:33	実態としてこれそういうつくりにはなっていないので、
1:07:36	それに、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:38	考えられる資料ではないのでイメージとしては、
1:07:41	ここで言いたいことは、基本、ひもづけをして、コメント回答の後にちょっと重くなっても、あった方が、
1:07:50	趣旨としては、
1:07:52	かなってるって理解でいいよろしいですか
1:07:56	その辺の気持ちは補足にワンスルーで入れて、ページ付けもしっかりしたつもりではいるんですけども、このコメント回答概要として見たときにどうかっていう観点で、
1:08:05	ちょっとお聞きしたいなと思いました。
1:08:07	こっちを見てくださいなんですかその趣旨は、
1:08:11	補足を見てくださいなんですか。
1:08:14	補足をですれここで言うと1個1個紐付けがあると、さすがにうるさいかなと思って20ページの、例えば、
1:08:21	入りのところで、
1:08:24	20ページ黄色い箱があって一番下に、詳細は補足の2-3-1に示すって書いているんですよ。それを、
1:08:31	見て欲しいっていう気持ちがあるんですけども、回答として返す部分は最低限ここに載せなきゃいけないと思ってまして、それに対応できるものを、
1:08:41	写真なりデータなりを入れて、
1:08:44	一つ一つの紐付けにページ振っていくとさすがに見づらいかなあというところでこのような構成にしたんですけども例えば先ほどの谷さんがおっしゃってた、
1:08:52	例瓦れきってどっから来てんだっていう、地質図版があった方が多分、このコメント回答として見やすいんだらうなってことなのかなと思って。
1:09:02	幸いにしてこのコメント回答って分冊にしたんで、物量が減ったので、後ろにつけていくってことも可能ではあるんですけども、そういうような、
1:09:11	理解でよろしいです
1:09:41	ね、リンク入れてもらうのは結構アノいいんだと思うんですけど。
1:09:45	いやこここれ見てね何とかだから何とかと判断される。
1:09:49	こと何かによって何とかに基づけばこういうことがいえる。
1:09:55	ていうのがね。
1:09:56	多分ここであれ、あってなおかつ細くに飛んだら、それでもいいのかもしれないんですよ。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:02	ただここでポンポンポンポンて入ってきて、それは補足のほうをちゃんとこう読まないから僕は悪く悪かったのかもしれないですけど、
1:10:12	多分、
1:10:15	ホデ、
1:10:17	ここで、
1:10:18	言いたいことがこうなんか橋と言えてないんじゃないんですかっていう、言えないんだったら言えないって言ってくれたらいいんですけど。
1:10:45	はい。で、でね、ばっかりなんか結局あれですかね
1:10:56	この 22 ページが、この 20 ページで、
1:11:00	コメントしているナンバー4 を、
1:11:02	全部パッケージで答えるとかいうことになるっていいんですかね。
1:11:08	膳所言い方悪いですね。北海道電力の渡部です。はい 20 ページで、ここナンバー4 の指摘って箇条書きで三つあるんですけども。
1:11:18	一つ目の、こっちが地層区分を説明することっていうことになりますので、
1:11:24	まとめて、このノロ幌似露頭 1 はどういう地層区分になるんだって最終的に言いたいことは、この 20、21、
1:11:33	22 っていうところに書いたというものです。
1:11:36	二つ目の歴史とか、基礎ライトの粒子の話っていうのは、その区分をするにあたって付随してくるエビデンスになってくるので、
1:11:45	それはそれで、後ろの方の No. 4 の別の回答という位置付けで整理をしたというものです。以上で
1:12:02	うん。
1:12:04	ちょっとなんか大体僕がこうなんかこれ見てコウん、何かわかりにくいなんて言ってたところは伝わってると思うんです。
1:12:14	ところの、
1:12:16	バシッと例えば 1 枚で説明するとしたらこうこういうエッセンスがいるなど。
1:12:21	で、
1:12:22	何かその辺、
1:12:25	もう少し考えてもらったと思うのと、
1:12:28	また何かすいません思いつきっぽく言ってますけど、このすみつき括弧がね、1 個目がね、赤色の火砕流堆積物の成因でしょ。で、この赤色の火砕流行堆積物の、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:40	内数の中に砂まじりシルトとかあるんですよね。その成因がこう来るんですよね。
1:12:46	そういうことでいいんですかね。
1:12:48	最後に、
1:12:50	赤色の火砕流堆積物及び砂まじりシルトの評価でこれ、
1:12:58	これさすがにねこ二つ地層があるんかと思っちゃうんですよねえ。
1:13:06	という。
1:13:09	いろいろ全然だよ。
1:13:12	そうそう最後に、なお、
1:13:16	何とかれきまじりシルト層に認められる砂まじりシルト層は、成因及び供給元が異なることから、
1:13:24	異なる地層に区分されるものであるっていう。
1:13:30	何が何の内数でだけど最後は異なる地層に待機
1:13:35	区分される。
1:13:37	ていう。
1:13:39	地層とは何かとか、
1:13:42	地質区分とは何だとかそういうことなのかもしれないですけど、
1:13:51	北海道電力の渡部です。少々すいません言葉の使い方が、確かに最後野瀬ミツイ括弧は誤解を与えたいと思います。
1:13:59	意識赤色の笠井の堆積物なんですけど、その下部っていうのはあくまで内数で、
1:14:05	それが外に出ているような書き方になってしまったのは適正じゃございません。
1:14:09	そこは直させていただくと、
1:14:11	全体的にやっぱり俯瞰的に見ていただく上では、もうし傷を使うというのが適切なんだろうなと思ってございまして、適正化させてください。
1:14:20	はい。
1:15:10	規制庁佐口ですけど、
1:15:13	当今ですネワタナベさんから模式図があったかわかりやすいよねというような、ご発言もあったんですけど、
1:15:20	基本的にですね 20 ページ見ていただければわかると思うんですけど、
1:15:24	ポツが三つあるとして、結局我々が、
1:15:28	欲しい回答っていうのは、
1:15:30	この大きな丸なんで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:32	それぞれ、小さいポツっていうのが、先ほど言ったみたいに 22 ページにあったり、
1:15:39	そのあとに、20 何ページとか、
1:15:42	それぞれの何かまとめなのか、結論なのか、結局やっぱやってどうだっ ていうことが書かれてるんですけど、
1:15:49	結局 20 ページの一番上の、
1:15:52	結局この斜面堆積物って評価したものは何なんだっていうのが、
1:15:57	ストレートに回答になってないんです
1:16:00	だから、そういう観点で、
1:16:03	だからいいですよ。当然各項目というか、各ポツのまとめみたいなのがあ った上で、
1:16:11	じゃあ最終的にこの斜面堆積物って評価してたものは何なんですかっていう最終的なこの大きくりでのまとめっていうのはきちんと入れていた だいて、
1:16:20	そういう形で、
1:16:22	きちんとコメント回答としての完結をしていただきたいと思います。よろし いでしょ
1:16:30	北海道電力の渡部です。はい、承知いたしました。
1:16:33	一つ目の、そうですね、大きなマルの、
1:16:35	回答ってのが最後に出てくるべきであって、それにぶら下がってる過剰 のコメントっていうのが、あくまでその前段ということがちょっと、
1:16:43	さ、確かにご指摘の通りわかりづらくなっておりますので、
1:16:47	修正させていただければと思います以上です。
1:16:55	あともう 1 点私こりクエストなんですけど、この
1:16:58	あれなんですかね、幌似露頭位置ちゅうのは、
1:17:03	僕も地形図、
1:17:06	周辺の地図見ているつもりなんですけれども、これが、
1:17:11	位置的には今北海道電力が見てる火砕流イセコウノ火砕流堆積物はこ こまで来てますよっていうのを、
1:17:19	に対して、
1:17:20	それよりも遠いわけ
1:17:22	つすかね。
1:17:24	例えばこの火砕流堆積赤色の火砕流用堆積物が、
1:17:28	もっともっと広がっているとか、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:31	もっともっと敷地近くの方に広がっているとか、そういう事実は、ないでいいんですかはっきりいえるのかそれとも、見なきゃわからないですって話なのか。
1:17:42	火砕流堆積物自体が、
1:17:44	例えばあそこがもし火砕流堆積物、アノ火砕流、
1:17:49	たいすニセコ起源の火砕流堆積物であったとしても評価には影響するのかもしれないのかとかいうのが、
1:17:56	何かこう、見てても、きっとこうなんだろうなという我々審査してる側の見た目は、あるにしても、
1:18:04	北海道電力としてどう考えてるのかとか、それがもし何か記載と、
1:18:09	だから、
1:18:09	どこにあるのかなというのを確認したいんですね。
1:18:15	渡部です。こちらの幌似露頭位置に関する調査っていうのは、
1:18:21	火山影響評価、特に立地評価の全体の枠組みでいくと、データベースに、まず基礎資料という段階に入ってくるのかなと思ってございまして、
1:18:31	基礎資料を整理する段階で最終的に斜面堆積物という判断をしておりますので、火山影響評価上を考慮するものではないという判断で、
1:18:41	それ以降特にニセコの火砕流との、
1:18:44	結びつけイセコウに対してどうなんだっていう評価を記載したりしてるものにはなってございません。以上です。
1:18:55	ちょっと明示的に聞きます
1:18:57	幌似露頭1のこの赤色溶解堆積物、
1:19:01	イセ
1:19:02	火砕流用堆積物、これ何キロ敷地からあるんだ
1:19:35	移動電力のワタナベです。約10キロです。
1:19:38	何かそういうね基礎的な情報も幌似露頭1とはっていうのが、
1:19:44	お金あってもいいかもかなってあとはほら、
1:19:49	融資、違う違う文献で指摘されたっていう話は、補足でまだ残ってる。
1:19:56	ですかね。
1:19:57	その辺のところにもこの小ノ口と一体何なんだとかいう、
1:20:03	そういうのは、
1:20:05	あってもあっても僕、僕たちとしては理解が進むかなというふうに思っ
1:20:10	ていましたよ。
1:20:12	文献でコウって言われているイセ小浦イデンかもしれないというふうなことを言われて

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:19	ニセコ雷電っていうのは敷地Gから何キロのところまで来、この別の地点でもっと近いところまで来ているんだけど、
1:20:30	その堆積物が何であるのか確認した。
1:20:33	ということを思うや。
1:20:35	意識してやられてるのかなっていうふうに思ったし、
1:20:40	例えばこれが、
1:20:42	もう、
1:20:43	うん、そう思います
1:22:03	はいすいませんね
1:22:05	これあんまり
1:22:10	です、風見氏のところもうさっき佐口さんが言ったことに尽きるんですけど、せっかくこう書いてるので、
1:22:20	ちょっと確認するんですけど、
1:22:23	何かねえ、やっぱか。
1:22:26	ここあんまり、
1:22:37	34 ページで、
1:22:39	いや結局こう文献見ると、火山ガラスが決め手になるんですよと名刺、
1:22:45	名刺を評価する上で、
1:22:47	そういうことを言いたってことですよ。その成因はいろいろあるんだけど火山ガラスがあるかないかで判断できるんだと。
1:22:58	で、
1:23:02	火山ガラスが含まれない。風間明氏っていうのは、もうないと言い切っ、
1:23:08	今のコウ調べる限らないっていうことでいいんです。
1:23:21	現在調べる限りに関しましては、火山ガラスを除くとアノ軽石が入っているっていうものはありますけども、例えばその決勝辺のみでできているだとか、
1:23:32	あと和智光永ん辺がいす辺岩種変等でのみでできているっていう中に 関しては、
1:23:38	見当たらなかったというのが実情になっております。
1:23:56	はい。研究部門の広井です。
1:23:59	タダ豆イシって本当に本当にいろんな種類
1:24:04	のものがあるんですね、ガラスが必ずしも必要かと言われたらそんなことはなくて、
1:24:10	もちろん、火山の噴火の噴出物っていうのは、ご認識の通り、その本質物質が出てくる噴火の方が圧倒的に噴出量が多くなるので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:23	本質物質である火山ガラスからできている風間明視っていうのが、どうしてもよく一般的に見られる姿にはなってしまうんですけども、
1:24:34	もちろん本質土質の紛失を伴わない水蒸気噴火ですとか、
1:24:39	水蒸気噴火なんかは特に、
1:24:42	細かい粒子がたくさん、
1:24:44	生産されて、しかも、低温、
1:24:47	の液体水なんかがいっぱい出てくるような噴火ですので、後、風間名詞を作るには非常に工場を受け
1:24:55	の噴火だったりします。
1:24:57	なので、そういったところを見ていただければ、本質物質の火山ガラスを伴わない風間目シノ。
1:25:05	堆積物っていうのを多分見ることができると思いますのでその辺調べていただいたら多分参考になるもので出てくるんじゃないかなと。
1:25:13	思い、
1:25:28	承知しまして、少しちょっと文献を見させていただき、
1:25:39	すいませんアノ廣井ちよつと対D2 なんですけど、今回ご準備いただいた資料を見させていただいてこの名刺に関しては、
1:25:50	2.1 に入ってる名刺と、あと色、
1:25:55	カルデラの噴出物に入ってるまま
1:25:58	クラベましたということでしたよね。
1:26:00	で、
1:26:02	これ見た時にあくまでも、その始良カルデラの噴出部通の名刺が一般的な名刺で
1:26:10	それと比較をしまして、似てないよっていうことをおっしゃったと思うんですけども、それだけだとつまり、
1:26:18	この2 露頭の名刺っていうのは、一般的じゃない、名刺なんだなっていうことしかわからないと思うので、
1:26:25	もうちょっと、本、今名刺ではないと思うのでしたら、名刺じゃないっていうことをいえるような根拠を示していただく必要があるのかなと。
1:26:35	思います。
1:26:37	それと、
1:26:40	何でしたっけ。
1:26:42	名刺じゃない場合に、
1:26:45	こういうふうを考えてますっていうのが、
1:26:49	何だっけ

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:51	あったと思うんですけど、
1:27:01	よ、ごく弱い水の作用により形成したもの。
1:27:05	と判断される。
1:27:08	これって、
1:27:09	そういうごく弱い水の作用で形成される名詞みたいな。
1:27:15	堆積部Ⅱが、
1:27:18	ご存じということ、いや、ですかねそういった堆積物の例を示していただいて、
1:27:25	その堆積物と比較をしていただいて、
1:27:29	名詞よりもこっちと似ているからやっぱこっちだねみたいなことを示していただけると多分、我々としても、タダノ創造の出来事じゃなくて、
1:27:40	実際にそうなんだなっていうのが多分わかりやすいかなと思うので、むしろそっちを示していただくのもいいかもしれ
1:27:48	ん。そうでしたら、現在は見られる状況証拠から少し推定を含めた状況で規制をしてますので、
1:27:56	ちょっとそういう事例があるかどうかに関してはこれからまた、あたってみないと何とも言えないですけども、
1:28:01	文献に関しては承知いたしました。
1:28:04	すいません私の方からいいですかね。江藤研究部門の佐藤です。衛藤、今野広井の方の発言ともちょっと関連するんですけど、
1:28:14	最初これを読んだときに思ったのが例えば
1:28:18	モジュールというかコンクリーションみたいなものを想定しているのかなというふうに思ったんですけど
1:28:24	例えばそういうコンクリーションみたいなものもやっぱり薄片の写真とか、別に探しに行っ来て来いということは、絶対に言うことはなくて例えば教科書とか文献とかそういうところを調べると多分出てくると思うんですよ。
1:28:35	電話の特徴とかも出てくる
1:28:37	ね。
1:28:38	そうしたときにそれらを、木曾来人と言われるものと、江藤風間根井氏の代表的なものとそのピースイソダですね、コンクリーションみたいなものを三つ並べたものを、
1:28:48	出していただけるとわかりやすいなっていうふうに思うのと同時に、今ここにある、38 ページに一応表が二つありますよね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:58	ちょっとここ、いつも気になってるところあって構造っていうところがあるんですけど、そのピットライトって言われるやつは外周部に不透明鉱物を多く含むシルト伴うというのを書いてあるのに対して、
1:29:09	相田の方のテフラの火山マネージャ数層の同心円状の構造が認められるっていうふうに書いてあってここだけ見ると何か全く違うもののように見えるんだけど、
1:29:19	上の写真を見てみると上で 37 ページ下の写真を見てみると、
1:29:24	風間明氏の外周部に不透明、不透明鉱物かわかんないけど何かをペークみたいなものを含むような、
1:29:31	感じのように見えるし、
1:29:33	それを宇都さん 18 ページ戻ってもらって、風間明氏の方にはその同心円状の構造が認められる構造だというふうに書いてあるんだけど構造の、
1:29:43	木曾来人様の方にはそれが書いてないんだけど、タイトルを見る限りは同心円状の構造を持ってるんですよこれ。
1:29:50	そういう意味でこの構造の比較対象がフェアになってないっていうのは、
1:29:56	すごく思うところですね。
1:29:58	そういう意味で構造を示すんだったら顕微鏡写真だ
1:30:02	ね。そういう意味で、
1:30:05	補足資料の方も見たんですけど、
1:30:09	かばん名刺とそのプライドとされているものの、顕微鏡ソヤ心を並べて変え、
1:30:15	何点だろう並べてこう比較してる場所ってどこにもなくて、
1:30:19	イソダイトウはピットライトのところで一応顕微鏡写真はあるんだけど、
1:30:23	この二つを並べて、衛藤違いを論じてるところっていうのはなくて、だから例えばこのコメント回答の資料のところだったら、この表のところに顕微鏡写真を、
1:30:37	木曾ダイトウの谷津と風間明氏とあとさっき言ったコンクリーションの写真をポンポンポンと並べていただいてその下で構造の違いとか、あと構成粒子の違いとか
1:30:48	論じてもらったほうが我々としてはわかりやすい。
1:30:52	というふうに思うんですね。
1:30:54	顕微鏡写真並べていただければ、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:56	磯田糸賀名刺に近いのかコンクリーションに近いのかというのをぱっと見てわかるんじゃないかと思うんですけども。
1:31:03	そういう意味でちょっとここあたりもちょっと再整理していただいた方がいいんじゃないかなってというのは、衛藤研究部門というか研究職から見ての感想です。サジェストということで、
1:31:17	ちょっとお話をさせていただきました。以上です。
1:31:27	ちょっとね、いろいろこう、例えばコウ子、しっかりと網羅的に知見を見たらどうなのかとかいう部分は、
1:31:36	なんかねやっぱりねさっき推定とか、何か、観察事実を踏まえて推定しているとかいう話ありましたけど、何かその辺の論理、
1:31:45	構成がなんか、あんまりこうピンとこないってところはあるんですね。で、
1:31:52	そもそも論をこれ僕、
1:31:54	ちょっと考えてみると、これって、言ってみたらあそこのフォロー、何、
1:32:02	この幌似露頭 1、
1:32:05	が、
1:32:06	火砕流堆積物ではないのか
1:32:09	その根拠の一つとして、
1:32:11	下記スライド宗田ってあるじゃない
1:32:14	そういった話だった。
1:32:15	そういった指摘もあって文献であってだからそういったものはどう、本当のところどうなのかっていうのを確認しに行った。
1:32:23	で、今、その論文だけを見ると一つ一つの項目を、北海道電力なりに、履歴の例えば化学分析だとかを取って、
1:32:33	アノや、やっていって、
1:32:36	整理したのが今回出てきてるんですけど、結局その中の位置付けとして例えばこのび空糸賀。
1:32:43	今のコウ、
1:32:45	そろえた。
1:32:47	結果からして、これ木曾ライトがび空糸であったときにはどうなるんですか。
1:32:54	これ、これは否定できなかった場合は、やっぱりそうなったら、これは火砕流堆積物、
1:32:59	っていう、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:00	こうは判断にこうなっていくもんなんですかちょっとその辺の考え確認させ
1:33:11	電力の渡部です。文献との対応関係で今一対一対応で、
1:33:17	当社としての評価を変えていってるんですけどもおそらく、
1:33:22	今火砕流用の堆積物としている。
1:33:26	厚さが5メートル6メートル7メートルぐらいですかね、もう堆積物に対して既往知見で火砕流用の可能性を示唆している一つの理由として、
1:33:38	下部に、
1:33:39	礫来入層のようなものがあって、
1:33:42	というのが理由として挙がってます。それに対して今私どもとしては、
1:33:48	一般的な火山豆しって知見を調べていった限りにおいては、ガラスってものを着目するんじゃないかなろうか。それでいくとけなシノってのは大変相手としていいんじゃないかというような整理を進めていってました。
1:34:00	で、これが明確に今後例えば、先ほどご提示ご提案いただいたように、
1:34:05	一般的じゃない名刺とか、
1:34:07	あとわあ、
1:34:08	別の観点の、我々が考えてるものの文献で持ってきてどれに近いんだろうってやって、なかなか答えが出なかったとしても、
1:34:16	結論として今持ってる全がん蘇生の結果、時価測定の結果、
1:34:21	火山灰分析の結果そういったものを合わせていくと、火砕流じゃないっていう証拠はある程度積み上げられている、いるんじゃないかなと考えてございます。以上です。
1:34:31	はい、谷です。
1:34:34	答えとしてはそんな感じになるんですかね。もしこれが美装ライトだと、
1:34:39	否定できなかつたときには、
1:34:42	つまりコウ火砕流じゃなくない堆積物の下に火砕流起源じゃないP空糸ってのは十分堆積し得るというふうに考え、
1:34:53	可能性としては、
1:34:55	そういうことは、
1:34:56	あるんだよと。
1:34:58	いう答え、
1:35:03	すいません、そういうニュアンスで、ごめんなさい、申し上げたものではなくてですね、遅、例えば、一般的なめしって比較をしてみたときに違うだろうということはいえる。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:13	ただ、じゃあ、一般じゃないもの比べてどうなんだってところで、なかなか明確に答えが出せなかったとしても、他のエビデンス積み上げたエビデンスから火災の可能性を、
1:35:25	否定しに行けるんじゃないか。磯来人ってことに対しては、多少ペンディング、このエビデンスについてはペンディングかかるかもしれないけど、他の論拠を積み上げることによって重ねるか最良の堆積物は火砕流ではないってことはいえるんじゃないかと考えております。以上です
1:36:50	うん。
1:36:51	そら井戸があるということは、ひょっとしたらそれは降下火砕物
1:36:56	かもしれん
1:36:57	さっき確認したように、あそこの地層は、
1:37:03	何かようりがあったりとかそういうものではなくって、
1:37:06	例えば加算、
1:37:08	何か火山灰の要素があったらあそこが全体が火山灰になり得る。
1:37:12	事を言ってるんで
1:39:10	はい。あともう1点はねこ0ジャージャーですよ。
1:39:16	毎回、これは
1:39:18	ちょっともつとその前提で、さっき確認があったんで、
1:39:22	あんまり意味ない確認かもしれないんですけど例えば火山ガラスがあるかないかで判断している中で、一方で、火山ガラスがなくなっても、それ風化によって火山ガラスがなくなる。
1:39:34	場合、
1:39:35	あそこの地層が、時代がわかって新しいような思想だったら確かに火山ガラスは残るんだろう。だけど、
1:39:43	時代もわかんないような地層のことを話をして、火山ガラスっていうのはもしあったけれども、もうふかしてなくなってんだとかそういう判断は、今の薄片でもできる。
1:39:53	もともと火山ガラスはなかったと、こういえるんですか。
1:40:06	補足し、説明資料。
1:40:09	の、
1:40:11	187 ページをお願いします。
1:40:20	こちらの1マル目、
1:40:24	4 ポチ目に記載をしているんですけども、
1:40:28	火山ガラス及び軽石が風化変質したことにより、形成したと考えられる粘土鉱物はほとんど認められないという記載をしまして、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:36	観察事実としまして例えば火山ガラスや軽石がその場にあったとしましたら、その外径等は崩れずに、粘土鉱物に変質しているものと思われるんですけども、
1:40:49	そういった跡等は全くないというのを見ております。
1:40:53	またその上の 186 ページに、火山灰分析結果を掲載しているんですけども、
1:40:59	ガラスの粒子数は少ない、3000 分の 53 粒子というふうになっているんですけども、重鉱物についても、ホルム練度が、
1:41:09	3000 分の 18 粒子程度ということで 15 分に関してもほとんど含まれていないという状況がありますので、
1:41:17	それらを踏まえて、そういう状況となっております
1:41:38	はい。
1:41:41	この 186 っていうのはび空イトウの話という、周りのあれですかね。
1:41:48	シルトとかをフェライトも含めて分析したと。
1:41:51	はい、おっしゃる通りです。
1:41:53	それによると、火山ガラスは、
1:41:57	そんな風化してなくて残ってるようなものもあってもしそういう条件であれば、
1:42:03	スライドの名刺のように見えるところにも、しっかりと残ってるんだらうっていうような話もある。
1:42:10	うん。わかり、
1:42:13	はい。ちょっと。
1:42:14	次に、
1:42:16	4、
1:42:19	はい。
1:42:21	でですね、次 40 ページ以降これすいませんなんか、時間がどんどん過ぎていってるんですけどこれが多分ね、
1:42:28	とても大事な花Cだと僕は思ってる。
1:42:32	んですけど。
1:42:35	結局、これ 40 ページの指摘事項No. 5 っていうのは、
1:42:50	火砕流堆積物等、火山 6 扇状地堆積物を確認している地点についてそれらを区分する根拠を明確にすることなんですけれども、
1:42:59	根拠は明確になったんですか。
1:43:02	区分する根拠とか、どこで明確になってるんですかちょっと確認させてください。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:27	サイトウ電力の仲山です。今 40 ページの、令和 5 年 10 月現地調査以降の検討と、
1:43:35	いうすみつき括弧二つ目なんですけど、
1:43:37	そこで課題として挙げていることがあります。これがシモジョウ軽石のような歴があると。
1:43:45	言ったところと、あと白色の利益が逆級化しているというところで、
1:43:50	こういった状況から、火砕流であるという可能性が考え、火災の特徴ではないかというところが課題として挙がっております。
1:43:58	その課題に対してCTを撮りまして内部構造を含めて定量的に把握したと。
1:44:04	そうしたところ、上位の火砕流と違いが認められないというような状況でしたので、この今特徴としては、このシモジョウ軽石のような歴がある、あと白色の歴、
1:44:18	が、逆級化しているというような状況もこの火砕流の特徴というふうに考えております。以上です。
1:44:28	CTとったところまでの説明は、ふむふむって思ったんですけど。
1:44:36	そのあとの、これが火砕流の特徴だと思っておりますっていうのは、
1:44:41	それはどこ
1:44:42	どっか書いてあるんですか。
1:44:47	えっとね。
1:44:49	今回、ちゃんと全体を見直して、
1:44:52	こういったものはしっかりと火砕流堆積物の方にしましたように。
1:44:58	いう部分がどこで読めばいいのかを僕は知りたいんですけど。
1:45:10	北海道電力仲山です。今多分
1:45:14	結論として、こういったものを、
1:45:16	火砕流の特徴として、
1:45:18	こういったものを火山力の特徴としている最終的な
1:45:23	特徴というものがちょっと見えにくくなっているかなと思いますので、
1:45:28	ちょっと検討させていただければと思います。
1:45:34	はい、谷です。お願いします。あとはねこれ、あれですよ。
1:45:44	説明が二つのボーリングに集約してるのかなこれ。
1:45:49	全体をちゃんと見直した上で他にもこういうのがなかったよと、見直したところがここなんですよっていう説明になってるんですけど。
1:46:00	ちゃんとう。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:46:04	区分する根拠が明確になっていると、明確になった根拠を用いて、ほかのコアも確認したけど、これでいいんだよっていう部分が、
1:46:15	こうなんか読んでてわかりにくかったんですけど。
1:46:19	その辺は何か記載ありますか。
1:46:23	やらなくていいって思ってたったら、いややらなくていいんですって言うてくれたらいいです。
1:46:31	北海道電力仲山です。
1:46:34	今この岩内の1イワイ6といったところで見直しをかけたというところなんですけれども、
1:46:40	同じような白色のれきがあって、さらには、堆積構造がないような状況と
1:46:50	いうのがある、火山6扇状地堆積物に区分していたものというのは、
1:46:50	特に見当たっておりませんので、全体を見ても、この特徴に合致するものはないので、見直したものはこれがすべてになります。以上です。
1:47:04	うん。その言葉でや言ってるのか。
1:47:07	説明されてます。
1:47:12	そこの旨は、すみません、全体を見てますというところは、記載がないので記載について、金。
1:47:21	させていただければと思います。
1:47:24	何かあれですね、今回整理した中では、
1:47:29	やっぱり火砕流堆積物のように見えるようなものっていうのはこういうものなんですよとその中にはシモジョウ軽石があったり、
1:47:39	と、
1:47:40	逆級化しているようなものがあったりとか、まあまあその他を今まで見てたようなことがあったりするもの。
1:47:46	それを改めてみたら、もうここで、
1:47:50	挙げてるところだけです。
1:47:56	うん。
1:48:01	こっちは何ですかね、ニセコ火山噴出物括弧火災、違う違う。
1:48:07	火山6扇状地堆積部Ⅱはこんなもんなんですよとそこはもう何かあれなんですか。
1:48:17	どういうものかって、これやってくださいとか言うつもりはないんですけど、それはどんなものがこう火災、
1:48:23	火山6010堆積物になるとかそ。
1:48:26	そういう整理は、
1:48:27	今あるんです。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:48:29	ですね少々お待ちください。補足説明資料の、
1:48:56	すみません、370 ページお願いします。
1:49:08	はい。こちらの、
1:49:11	ニセコの火山噴出物の分布の東側の範囲に位置してますアノB3 ボーリングと、
1:49:17	いうところで火山 6 扇状地堆積物、認められております。
1:49:22	右側に 170 ページの右側、写真載せてまして、
1:49:28	青い破線で囲んでる範囲が、火山 6 扇状地堆積物に区分したところになります。
1:49:34	この中に、はですね堆積構造が認められております。
1:49:40	こういった流されたような堆積物ですので、こういったものを火山 6 扇状地堆積物というふうに判断しています。特徴としてはそういったものを見ているということになります。以上です。
1:50:04	すみません。江藤そうですね堆積構造というとなれなんですけれどもこの流れを示唆するような、堆積構造料理だったりとかっていうところがあるので、そういったものが、を見ているということでもあります。以上です。
1:50:28	わかりました 40 ページ 41 ページについては、ちょっと実際やられたことっていうのは今確認できたんですけど、そこ、それをね、どこまでコウ
1:50:38	アノ。
1:50:39	指摘試験指摘に沿って答える。
1:50:42	指摘の趣旨に沿って答えっていうのをちょっと、
1:50:46	考えてもらったらなというふうに思いました。
1:50:51	ですね。
1:51:10	それを踏まえて、
1:51:13	とに施行。
1:51:15	来年の火砕流堆積物、
1:51:18	の分布範囲を、
1:51:20	46 ページからでいいんですかね。
1:51:36	これ確かにね、やってることで 50 ページが特に到達可能性評価っていうことで、結果ですよ。
1:51:44	これね、何か読んでね、
1:51:52	何を、
1:51:53	何を根拠にこれが、
1:51:56	端部なんですよっていうの

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:52:00	が、
1:52:02	何かいろいろ書いててわからないのかもしれないんですけど、
1:52:08	これ、あれですね二つ目の丸の一つ目は部分分権の話と、
1:52:16	文献と自社の調査の話。
1:52:19	最大到達線の話が次にある
1:52:25	で、
1:52:26	えっと、
1:52:27	自社でやった。
1:52:40	失礼しました。
1:52:44	もうもう、何かストレートに言うとどどんなんですか。これなんかね書いてるのはね、岩内郷。
1:52:51	岩内コガ。
1:52:53	最大到達視点と考えてるんだけど、これが文献と整合的です。
1:53:02	それが、
1:53:03	決め手なんですか、何。
1:53:05	何か文献と整合的だからOKな
1:53:08	っていう。
1:53:15	Nクノワタナベです。
1:53:17	自社で確認している最大到達地点が、文献と著しく乖離してないってのは重要だと思って、
1:53:23	整合的な状況にある、それと、その先の数あるとしたら想定される相違ないっていうことを考えていくと。
1:53:31	今の言わないの、1個のボーリングの付近が、
1:53:36	最大到達。
1:53:39	火砕流が届いていたとしてもここから大きく、
1:53:43	離れた場所まではいかないっていうことを担保してるんじゃないかと考えてございます。以上です
1:53:50	すいません。私の聞き方も何かよくなって、
1:53:56	最大到達地点が、
1:54:04	以前の説明では最大到達時点っていうのがニセコのコウ層準をたどっていったときに、本当にコウ渥美としては、
1:54:14	薄くなっている
1:54:15	んですよ。
1:54:16	だから末端縁辺部
1:54:19	末端付近でしょうと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:54:21	いうことをまず補北海道電力考えたんですよね。
1:54:25	それが根拠なんですよね。
1:54:27	で、それが、
1:54:30	文献とも整合している。
1:54:33	ていうことを言いたいんいいのかなと思ってたんですけどそういうことですか。違うんです
1:54:39	最大到達地点っていう用語が、
1:54:45	そこに最大到達地点だから、過去も届いてたとしてはここまでっていうことまではさすがに言い切れないと思ってございまして、
1:54:55	自社として事実として確認する際はここだけど、じゃあ、それよりも大きく実は行ってる可能性があるのかないのかっていうところで、それを打ち消してくれる要素っていうのが、
1:55:06	その先のしかるべき層位に存在していないであったり、文献と調和的な範囲にとどまっているっていうことかと考えてます
1:55:14	例えば敷地の近傍に火砕流が来ていないっていう状況にある。
1:55:19	13 火山のうちの残りの 10 火山とか、
1:55:23	そういったものに対しては最大到達地点、
1:55:27	が敷地の近傍までない、つまり敷地からキュウゲンまでの距離に対して最大到達地点が著しく小さいっていうことで、到達可能性評価を
1:55:37	シンプルにしてできるんだろうなと思ってんですけども敷地の近くまで来ている塔屋やニセコ
1:55:44	支笏はまた別話別になってくるんですけどそういうものに対して最大到達地点がここだから、
1:55:49	過去に届いてないでしょっていうことは一概には言えないので、
1:55:53	最大到達してもここ、それ以上行くとしたら考えられる相違があってそこにはないとか、文献の範囲にあくまでとどまっているそういったものを突き合わせることで、
1:56:03	過去の到達可能性の評価ができるんじゃないかと考えてございました。以上です
1:56:23	やっぱり
1:56:26	ただ文献をなんか、どこまでしているのか、いや、
1:56:30	これ言ってるのって、いや、最大到達範囲、その最大到達地点は言えますと。
1:56:37	じゃあ、田んぼはどうやって決めたんですか。
1:56:40	文献ですってなってるのか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:56:43	そこがね。
1:56:45	なんか、
1:56:46	わからないんですよ。
1:56:47	それは、何かの文献とかでこういうところ言われてるのをさらにそれよりも、何かしっかりとした調査を、
1:56:54	北海道電力としてはやっているんだから来端部が決めるっていう、
1:56:59	理屈だったような気がしたんですけども。
1:57:03	何か整合的かどうかっていうのは、後の話な気がするんですね。ただ、端部は、
1:57:09	決めれた後の話がするんですけど、そうじゃないんです
1:57:13	ちょっともしそうじゃないんだったら僕の勘違いもあったのかなと思いますけど。
1:58:56	すいません北海道電力の渡部です。ちょっと、
1:58:59	考え過ぎてましたそうですね 20 ってのはどっか行ってしまっていて、その 20 は根拠として使うべき。
1:59:05	話であって、精度よく我々は西側の範囲で調査した中で、最後、確認してる一番遠いところで 20 センチになっているっていう事実は変わりませんので、
1:59:15	そこを最大とん立つ地点としてののは、判断の、
1:59:20	理由として使ってる場所見えるように、記載を適正化させていただきます。以上です。
1:59:33	はい。わかりました。僕らはこれ多分審査で確認するのは、
1:59:38	到達していないって言うけど、じゃあどこまで到達していないって考えてるんです。どこ。
1:59:46	どこまで到達していると考えてるんですか或いは、どこまでは、
1:59:51	絶対に来ていないと言ってるんですか。
1:59:55	それで、そういう話の中で、
1:59:57	文献がこうなってそれと整合的なこと、ところでここなんです。
2:00:02	そう、そうじゃないような気がしてて、
2:00:07	今のコウコノダ断面図から、
2:00:09	この断面図をコウオカ、書いてもらってるじゃないですか 55 ページで、
2:00:15	うん。
2:00:18	で、この断面図でね確かにこれをコウ、
2:00:23	ただ単にこうここはこうでしたっていう、
2:00:29	いうのはいいんですけど、北海道電力として何、何の主張なのか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:34	これ何でしたっけこの断面図の 55 ページの③、当社調査における、
2:00:40	④、
2:00:42	最大到達点、丸この③と④なんでしたっけ。
2:00:48	54 ページの絵ですか、文章ですか。
2:00:59	これだからね、最大到達地点を説明して欲しいわけではありませんね。
2:01:06	どこまで到達しているのか、或いはどこどこからは到達していないと考 えているのか。
2:01:14	それによって、敷地からどこまで来てるんですか。
2:01:18	ていう、そういう話なんだと思うんですよ。
2:01:45	54 ページ後、55 ページで、
2:01:49	③、55 ページの③で、ここまで、ここで
2:01:54	何か今の説明でいうと 0.2 メーターでこれが末端付近、
2:01:58	であるだろうと。それは確かに文献とも整合してるし、
2:02:03	さらにその先の地質調査では見つかっていませんよ。
2:02:07	いう話をした。
2:02:08	時に、
2:02:10	次に私言ったように、
2:02:12	じゃあどこまで来てんですかっていう話をしたときに、
2:02:16	今度 52 ページを見ると、いやこれはB、
2:02:22	今と飛んここまでしか来てないよっていう、言わない後の話とはちょっと 違うところが、
2:02:28	最大到達距離になってて、
2:02:30	それは
2:02:32	最大到達距離、
2:02:34	火山地質図での到達範囲になってて、それが 57 ページ。
2:02:40	なるんですよ。
2:02:48	で、この①のところまで、
2:02:53	北海道電力としては、
2:02:56	到達しているっていうふうに、
2:03:00	管、
2:03:03	到達したと。
2:03:04	いうふうに考えてるってことでいいんです。
2:03:18	電力の渡部です。はい。
2:03:27	左の方ですね。
2:03:30	イシダ他 1Q1 の辺りって、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発音者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:03:33	最大の 11 キロ。
2:03:36	ウタがあるところでこれ、
2:03:38	断面線引いてる関係で、こういう形にはしてるんです
2:03:47	うん。でね。だから、
2:03:50	もう一度ちょっと話逸れますけど、
2:03:53	57 ページって、
2:03:59	当社の火山地質図における到達範囲と、
2:04:03	石田ほかは、
2:04:05	概ね整合的であるって言ってますけど、
2:04:09	この火山地質図ってインダほかを見ながら書いたんじゃないんですかこの辺は。
2:04:14	じゃないんですかね。そう。
2:04:16	インダ他も当然見てますけども、地形判読をした上で、
2:04:21	その範囲っていうのを決めてございます。
2:04:23	地形判読で判断して、
2:04:27	見たところと整合的なんですね。
2:04:32	インダ他は。
2:04:35	そうですねはい。
2:04:37	だから必ずしもインダ他でここがかさん火山火砕流だからって言ってここを重ねるようにしてるわけじゃなくて、
2:04:46	北海道電力としては、
2:04:48	地形判読を優先させてやっていると。
2:04:50	その地形判読くーで、
2:04:53	ここまで一掘掘っていうのが何か別であって、
2:04:57	地形だとか、ボーリングだとかであって、
2:05:01	それによってここまで来ているだろうと、しているってことですね。
2:05:06	それを何かひもとかないと、
2:05:10	何かここまで来てますよ。
2:05:12	ていう話が、
2:05:15	結局最後
2:05:17	一番敷地の近くに来ているのは、
2:05:21	56 ページで言うと、
2:05:23	①のちょっと左側なんですけど、
2:05:26	ここからもっと来ているかどうかという直接的な証拠はなく、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:05:33	どうやらこの地質図が正しかろうというのが、岩内後の話であったり、こういうコウ 57 ページの話とかでは、
2:05:41	Dだからここが端点っていう話になるんですかね。
2:05:45	なんかねちょっとね僕が、すいません。
2:05:48	一番近くで来これよりこっちに来てないだろうっていう話を、
2:05:54	しっかりとす。
2:05:56	説明していただきたいんですけども、
2:05:59	これが何だかよくわかんないんですね。
2:06:03	すいません北海道電力の渡部です。先ほどの谷さんからの西側の範囲のコメン等を踏まえていくと、おそらく西側の範囲の私どもの言いたいこととしては、
2:06:15	言わない子ポーリングっていうので、
2:06:18	一番遠い距離まで確認しているものがあります。
2:06:22	その位置っていうのは、イシダ他の 20 万の縁辺部と整合的な状況にございます。厚さとして 20 センチ程度に薄くなっていること。
2:06:32	その先の想定される層位に火砕流が存在しないことから、岩内港の辺りを末端部付近と判断することは妥当だと思いますという考えができるんじゃないかと思っております。
2:06:44	で、そのような形でいくと、イシダ他との整合性っていうことに対する、
2:06:49	何ていうかイシダ他の制度というのをずっと上がってきますので、中央の範囲については、我々としてはデータは少ないっていう状況にあるんですけども、地形も踏まえた上で、
2:07:00	火砕流が行っているだろうという範囲というのは、イシダほかの最大到達距離の 11 キロと、
2:07:06	1 字 1 句乖離している状況にないので、この辺りをもって到達はしていないという判断ができるんじゃないかというふうに考えてございます。以上です。
2:07:17	はい。
2:07:19	そうっすね論理展開としてそんなことを考えてるっていうのが、
2:07:23	今、ようやく確認できたんですけど、
2:07:26	多分何か資料は、
2:07:28	それ伝わらないですよ今このこの、
2:07:41	はい起こりますと、で、
2:07:44	そっか結局だから、
2:07:48	結局何キロでしたっけ、10、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:07:58	7.2 キロが、
2:08:00	イセ小浦イデんで、
2:08:02	シャクナゲ尺の下、
2:08:09	再到達の距離が、
2:08:16	11 キロ。
2:08:19	その 11 木藤ってななんか、
2:08:22	これか、52 ページの左の絵か
2:08:27	石イシダ他で 11.3 キロですね。
2:08:31	北海道電力としては 10.6 キロそうですね 10.6、岩内小
2:08:37	四捨五入して、整数値でいうと約 11 というふうな感じかなと思ってございます。
2:08:44	もっと近くまであるんじゃない。
2:08:49	として明確にボーリングをもって押さえている中、距離が 10.6 っていうことでございましてもっと近くっていうのは中央の範囲とかおそらくそうだと思うんですけども、その中央の範囲っていうのが、イシイが放火で言っている最大の位置とほぼ同じになってくるので、
2:09:04	ここは 11 キロ程度と考えております。
2:09:24	記載をさせていただきます。
2:09:58	この辺はねえ。多分だからこう、せっかく断面図つくっていただいてこういうデータがありますっていうのもわかりました。だから断面図を基づくところの断面ではこういう範囲まで来ているとかいう話も、大体考えられてることがわかっ。
2:10:12	てて、
2:10:13	エビデンスは断面図に公知しているということで、最終的に全体として、
2:10:21	どこまで来てるんですかっていう部分を、
2:10:25	ここの断面図からどう、どういうふうに展開して、
2:10:29	一番近いところでは、
2:10:32	別に物証が、
2:10:34	ここの子ジャストの地点で部署があるわけじゃないんだけど、周りのコウ、
2:10:38	北海道電力がこうやってきた調査からは、こういえるんだと。
2:10:42	いうことを何となく今の渡部さんの説明で、
2:10:47	言わんとしてることは、
2:10:50	わかってきたので、
2:10:52	はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:10:53	これはあれです。
2:10:56	と、58 ページを見ると、
2:10:59	前回のヒアリングとちょっと変えたんですっけこのCC’
2:11:04	C、
2:11:07	50、59 ページ
2:11:11	ごめんなさい僕は、
2:11:14	59 ページのシーツ’ がかかっているようなところ、本加茂江川と記載をしておりますけども、そこからシーズリー’ 方向、
2:11:24	2、
2:11:25	の、
2:11:26	地表部に関しては火砕流堆積物、
2:11:30	として区分をしてございます。
2:11:33	これらの根拠に関しましては、
2:11:39	46 ページの火山地質図の、
2:11:44	精緻化というところにかかっておりますけども、
2:11:50	こちらの東側の範囲にはAとBさんボーリングBなボーリングを実施してございますがこちらについては火山 6 扇状地堆積物を直接確認をしております。
2:12:01	ただし、こちらのB3 ボールのBなボールが一致する地点に関しましては一つの尾根を形成しております、
2:12:08	その南西側の尾根に関しましては土地形態が異なっているというところで、
2:12:16	直接これは笠井イケダイセカドノ区扇状地堆積物が分布するかどうかというところに関しては、
2:12:23	わからないというところがありますので飛ぶインダ他で、火砕流堆積物、
2:12:28	と等が分布すると記載されていることを踏まえまして、この範囲に関しては火砕流堆積物、
2:12:35	と変更をと解釈をしております。
2:12:39	断面図に関しては
2:12:41	解釈によるもので変更をしてございます。
2:12:44	わかりました。
2:12:47	要するにあれですね前回のヒアリングでは、この根拠となってB3B7、
2:12:54	があつてそれずっとそこその
2:12:56	そのの、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:12:58	そこにかかるようなもの全部、
2:13:01	書いてたんだけど、
2:13:02	少なくとも変えられる範囲っていうのは、ここまでなんだよ。少なくともここまではいえるよっていうちゃんといえる範囲にこう変えたってことでわかりましたの。
2:13:21	あとはやっぱりこのニセコ雷電濃火砕流が、
2:13:26	何か地形的な観点から、もうこういう範囲。
2:13:31	に限られてるとかそういうことは特に言わない。
2:13:35	言えないんですね。
2:13:52	スズエと 50 ページの、
2:13:56	2 マル目前方向という割り付け括弧の 2 ポチ目のところになるんですけども、
2:14:02	イシダオカ 1Q1 に示される火砕流堆積物と、当社が認められる当社抽出調査で認めている、トリソ火砕流堆積物については、
2:14:12	二相コウ雷電火山群の火山 6 地形に位置している。
2:14:17	というふうに記載をさせていただきます。
2:15:14	はい。ちょっと何か。
2:15:16	わかりまし
2:15:20	でですね、
2:15:22	次の 61 ページ、
2:15:38	規制庁の山崎です。ちょっと確認させていただきたいんですけども例えば 58 ページ左側のオレンジのその火砕流がどれだけ、泊原発の方に向けて伸びてるかっていうのが、
2:15:50	とても重要なポイントで、それを示すにあたってのその断面図の測線がですね、
2:15:57	この
2:15:58	例えばCとかだって大きく、
2:16:00	曲がっちゃってるんですけども、
2:16:02	何でこういう測線に沿って、
2:16:05	断面図を描かれてるのかって、
2:16:08	例えばこのCC' 例えばB' とかにすると、
2:16:11	より泊の方に向かってどれだけ伸びてるかっちゃうのを、
2:16:15	指名するにふさわしいのかなと思うんですけども。
2:16:18	そのあたりの意図は、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:16:23	全然当該断面に関しましては、AとB簿B3Pなボーリング位置している尾根と阿藤。
2:16:31	シースイダ手術'が並んでいるところで、時計でいうと、三本の尾根ができております。
2:16:37	その尾根の方向に向かって、CSP' シーツ' を伸ばしておりますしてそこからボーリング、実際にデータがあるところに向けてというサービスが尾根に沿って流れるということに沿って、はい。
2:16:50	はい。
2:18:36	谷です。
2:18:37	コメント回答のあとは最後、7 番の 61 ページ以降なんですけど、
2:18:58	これ結局、
2:19:00	等確認した範囲っていうのは、
2:19:06	ここのコメントってあれですよね火山ガラスって。
2:19:09	ガラスがないだけじゃ、火山灰じゃないと思いきれないんじゃないのかっていう。
2:19:14	検証して、それは、10 歩物等で、
2:19:19	もう指標に入れながら、確認しますよと。
2:19:24	いうところでした。
2:19:26	で、
2:19:27	それを見る特に見る。
2:19:30	対象は、
2:19:32	この
2:19:34	61 ページの条件 1 条件 2 っていうのをまず抽出したんですよと。
2:19:44	これやり方ですね。
2:19:46	62 ページで、条件 1 と 2 っていうのは、1 個しかなかったよと。それは大事。
2:19:52	火山灰じゃなかったよ。
2:19:56	で、
2:19:57	63 ページで、
2:20:02	なお、
2:20:07	条件 1 に該当するけど、
2:20:14	条件 1 利益オオクマフクマズ再細粒な早々のものについては、
2:20:21	一通り見ましたよってことですね。
2:20:26	一、二をちゃんと見るんだけど、1 に当たるものは、
2:20:30	全体通して確認しましたよでいいんですかね、これは。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:20:35	15 物全部が全部やってるわけじゃないんですけれども、組成持ってる ところに関しては、すべて確認しております。
2:20:49	僕は、
2:20:51	そういう点、すごい大事だと思ってて、
2:20:55	いやなぜなら言われたところだけをやるんじゃないかってしっかりそれを水 平展開してますよってというような、
2:21:02	ところで、ここのほかもちゃんとやってるんですよっていうところがすごく 大事だと思うんですよねそうじゃないところ。
2:21:09	でもやったけど実はこういう観点で見たらまだありましたとかいう話になり そうで、何が言いたいかというと、63 ページでなお書きとしてこういう のも確認しましたよって書く。
2:21:21	ぐらいたったら、
2:21:22	61 ページの方にね。
2:21:25	ちゃんと検討の方針として網羅してやる観点からこういうこともやったん だよっていうのはね。
2:21:31	もう少し前面に出して強調されたらな、いいのになと思ったのと、
2:21:46	あとあれかこの 63 ページの最後のまたっていうのはこれ、具体的に言 うとこれがアノイセコウイセ国 6、
2:21:57	ワイスホルン目録の話。
2:22:00	なんですね。
2:22:08	はい、わかりました。
2:22:16	あともう 1 個ちょっとニセコ雷電の話をしたときに、
2:22:20	何か過去の会合で、
2:22:23	遠矢は、
2:22:28	とうやは、
2:22:31	火山灰、
2:22:33	火山灰のうち、
2:22:35	やっぱり一部は火災サージぐらい。
2:22:38	かもしれない。
2:22:40	それは、完全に否定できないよっていう。
2:22:43	判断をされた。
2:22:45	で、
2:22:46	それがニセコ雷電は、
2:22:50	敷地でもまじってるわけですよね火山。
2:22:53	ガラス、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:22:56	それは遠矢のように、
2:22:58	伴判断。
2:22:59	可能性否定できないような、
2:23:04	火災サージぐらいであることは完全に否定できるのかっていう部分は、
2:23:09	前なんかちらっとは書いてたと思うんですけど、今は数、今もうそれどっか残ってるんでしょうか。
2:23:20	補足説明書の 141 ページをお願いします。
2:23:33	141 ページの左側に記載をしてございます一番下の丸になります。
2:23:39	江藤タナカ様に対比される火山ガラスにつきましては、
2:23:44	老古美地点確かに、火砕流堆積物が認められておりますけども、この分布範囲を超えて対象火山灰に対比されるような火山ガラスから成るレイヤーは認められておりません。
2:23:55	また文献によりますと、土佐GPMは短命であって発生元から 3 キロ程度しか分布しないというところを踏まえますと、
2:24:03	これらは火砕流または葛西佐治ではなく、
2:24:08	火砕流が堆積した後に封水順として混在したものとして、と記載をしてございます
2:24:26	聞き方変えましょうか。洞爺とは、
2:24:29	何が違うっていう話なんですか。
2:24:35	遠矢のように評価しなくていい理由は、例えば幸田けどニセコ若生っていうのちょっと、
2:24:42	簡単にこう、
2:24:44	かいつまんで言ってもらって、
2:24:46	投与の場合は、文献レビューしていったときに、本体の火砕流としての、
2:24:53	宗層としましては、軽石火山灰して軽石まじり火山灰という早々でそれを本体本体で我々言ってきました。
2:25:00	ですが幌似っていう、現地調査で見ていただいた露頭よりさらに西側に行ったり村井露頭っていうところに行くと、軽石は認められない。
2:25:10	ただ分析をすると、本質物のガラスが 3000 分の川柳市場あるという状態で、当初は軽石がないので、火砕流に対比されないというような話はしていたんですけども、
2:25:22	やはり細粒分からだって軽石がないことをもって、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:25:26	火砕物ミスト流ではないとは言い切れないというお話を指摘の中でいただいて、それらについては、火災サージか、降下火砕物由来かを元ミツイ区分できない。
2:25:35	ただ条件としては主に本質物から成っている細粒なソースを呈するものでした。
2:25:41	対して対象火山灰に関しましては、ニセコの火砕流起源になるんですけどもまずニセコの火砕流と認定している範囲を超えた、その先に、
2:25:51	イセコウノ会高さに対比される火山ガラスからほぼほぼなるような、
2:25:57	細粒な堆積物ってのは確認されていないという状況が洞爺との違いとと考えてございます。
2:26:02	敷地までいくと、3000分の5粒子とか重粒子とか、そういったわずかな数の対象火山灰のガラスがあるんですけど、これは、
2:26:11	そういった主に細粒な本質物からなる。
2:26:14	対象火山灰という層が敷地近傍に認められないので、あくまで従来ではなくて、この火砕流が堆積者のうちにふう成人等によって運ばれたものじゃないかという判断をさせていただきます。以上です。
2:26:41	この、この文章の中でね。
2:26:44	一番大事なポイントは、
2:26:50	主に、
2:26:51	対象火山灰に対比される火山ガラスから成る層準が認められない。
2:26:57	これが違うってことで、
2:29:46	コメント回答ももう時間がないので本編の方、
2:29:50	短い時間ですいませんけど、変更点説明してください。
2:29:55	はい。北海道電力仲山です。本編資料の方、58ページ。
2:30:01	します。
2:30:05	58ページから50、61ページには4の1章、火山活動の規模と設計対応不可能な火山事象の評価。
2:30:13	の結果を示しております。
2:30:15	このうち58ページの青箱のすみつき括弧、二つ目火砕物密度流の検討におきまして、洞爺カルデラ、支笏カルデラ、そしてニセコ雷電火山群について、
2:30:26	その他の10火山と異なる検討を行っておりますので、その理由を追記しております。
2:30:32	火砕物密度については、火災を含む火山噴出物の最大到達距離と、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:30:38	1 から各火山までの距離から敷地に到達する可能性を評価することを基本としますが、
2:30:43	洞爺支笏イセコウについては、次の理由から、敷地近傍または給源から敷地方向における火砕流の分布状況等に関する検討も踏まえて評価を実施しております。
2:30:55	遠矢と支笏
2:30:58	あいいですか。
2:30:59	わかりました。はい。
2:31:01	今、変えたところなんですけれども今この、このように、
2:31:07	洞爺と支笏については、過去の巨大噴火に伴う火砕流が広範囲に分布
2:31:14	して給源から敷地方向に 10、
2:31:16	数十キロ分布しているというところで、この二つは抽出
2:31:20	でニセコ雷電火山群については敷地近傍に火砕流が認められるという
2:31:25	ところで、抽出しているというところになり、
2:31:27	また、この下のなおというところなんですけれども、クッタラ登別火山群、こちらにつきましては、以前、
2:31:35	巨大噴火をするというところで対象として火砕物密度流の検討、洞爺と支笏と同じように検討していたんですけれども、敷地方向において、数十キロの距離に分布する状況ないと。
2:31:47	いうところですので、洞爺支笏、そしてに施行。
2:31:50	以外の火山と同様に、
2:31:52	火砕流の最大到達距離と敷地から各火山までの距離の比較による評価を行っているものになり、
2:32:00	すいません。
2:32:01	飛びまして 88 ページお願い。
2:32:12	88 ページが、4-1 章の検討のうち新しい火口の開口及び地殻変動に関する個別評価の結果示しています。
2:32:22	今回その火口の開口と地殻変動に関する個別
2:32:26	評価について、地震活動と、
2:32:29	地殻変動の検討結果がどのような評価に寄与しているかがわかるような記載としており、
2:32:36	また気象庁の火山活動解説資料について位置付けをちょっと明確にしていなかったところがありましたので今回は参考として、
2:32:45	踏まえて、各確認しているというところを記載しております

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:32:49	ここは墨つき括弧、つけまして見だしをつけて、それがわかるように、修正をし、
2:32:57	すいません、116 ページ
2:33:00	7 ページ
2:33:07	こちらは巨大噴火の可能性評価を行っております 4 の 2 章の検討のうち、支笏カルデラの検討、4-2 の 2 章になります。
2:33:16	評価結果をまとめとして表で示し、
2:33:19	たりするんですけども、
2:33:21	この各検討項目における結論が、この 116 ページの青い字、青箱の中にどのように反映するかがわかるように、表の中の記載を適正化しております。
2:33:34	1 例としまして、116 ページの表の活動履歴の一番下に青字書いてるんですけども、
2:33:42	こちらの現在の支笏カルデラの活動状況を把握するため、巨大噴火時の状況と現在の状況との差異について検討を実施した結果というところを追記しており、
2:33:54	212 ページをお願いします。
2:33:59	212 ページからは 5 章の検討、影響評価の検討になります。
2:34:04	で、ちょっとまた飛びまして 222 ページをお願いします。
2:34:11	この 1-1 章、敷地及び敷地近傍で確認される降下火砕物
2:34:17	という検討の中で、地質調査の結果を示したページがこちらになります。で 222、223 ページ
2:34:24	まとめ示しています。
2:34:26	222 ページの一番下の黄色はこの中の一番下のなお書きになります。
2:34:33	こちらの指摘事項のナンバー10 という指摘、野塚層に認められる火山灰に見える堆積物について、今回この部分に追記しています。
2:34:44	結論として 223 ページこの青箱の中にこの
2:34:48	指摘のナンバー10 野塚層の火山灰に見える堆積物について、記載がないんですけども、注釈付してます。
2:34:55	今後このAで一、二十 6 強アノ 6 ボーリング、
2:34:58	の野塚層の堆積物を、降下火砕物と評価する可能性はあるが、層厚、約 15 センチであり、
2:35:06	火山灰を海食B、これが地質調査で認める最大ですけども、約 23 センチよりも、層厚が小さいことから、降下火砕物にの影響、塗装厚評価に影響を与えるものではないと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:35:19	いうふうにな注釈に記載しており、
2:35:23	226 ページをお願いします
2:35:31	226 ページが、この 1-1 章のまとめ、示しています。
2:35:36	以前層厚評価の検討対象という用語が、
2:35:41	統一されておらず、ちょっとわかりにくかったというところで、
2:35:45	このノミネートしている文献調査、地質調査の結果出られたものを検討対象としています。
2:35:51	で、そこから選り出されたものについては、対象候補
2:35:55	その局の対象候補というふうな呼称をしています。
2:35:59	230 ページお願い
2:36:07	230 ページからは 5-1-2 章、降下火砕物シミュレーション
2:36:12	このうち、シミュレーション対象となる降下火砕物の抽出結果を示しています
2:36:17	シミュレーション対象となる降下火砕物の抽出について、敷地への影響が最も大きいものを抽出するために、検討対象となる。
2:36:26	降下火砕物の選定、そして、選定した降下火砕物のスクリーニングを行っているということを明確にしております。驚見つき括弧、これ二つに分けて、その旨記載しています
2:36:40	まず検討対象となる降下火砕物の選定になりますが、シミュレーション対象とする降下火砕物については、敷地への影響が大きいものを抽出する必要があることから、
2:36:49	まず、1 と 2、ローマ数字 1 と 2 の検討対象、降下火砕物を検討対象として網羅的に選定しましたというところになります
2:36:58	泉つき括弧二つ目の選定した降下火砕物のスクリーニングになります
2:37:04	今選定したものに対して、シミュレーションの実施必要性の観点、そして閾値への影響度の観点からスクリーニングを実施します
2:37:14	必要性の観点から、行っているスクリーニングプロセス 1 と 2 になります
2:37:19	こちらについてはシミュレーション実施せずとも、敷地における降下火砕物の層厚評価が可能なものを除外するような作業となっております
2:37:28	また敷地への影響度の観点のスクリーニングは、プロセス 3 と 4 になりまして、シミュレーションを実施した後に、実施した際に、敷地における層厚が最も大きくなると考えられるものを抽出する作業になります。
2:37:43	またプロセス 3 につきまして、敷地への影響がより大きいものを抽出するという観点から、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:37:50	今までは同一火山内での比較を行っていましたが、このプロセス 2 で残ったすべての降下火砕物に対し、分布主軸上で、給源から敷地と同距離の地点、
2:38:01	の層厚が最大のものを抽出するという形に、プロセス 3 を変更しても
2:38:07	233 ページ
2:38:10	そのプロセス 3、
2:38:12	上側の水色の囲みの中、プロセス 3 の検討結果になります。
2:38:17	プロセス 2 で残ったものに対して、文献分布習熟上で、給源から敷地と同距離の地点の層厚が最大のもの。
2:38:26	それが、このNaTEDKB136、薄Bイワイを 1、この七つになります。これらはいずれも首藤他の藤層厚線図で、
2:38:36	50 から 100 センチの範囲以外といたします
2:38:40	で、このプロセス 3 の修正によりましてプロセス 4 で、地理的影響を考慮して、敷地との距離が最も近いもの、そして、規模的影響を考慮して噴出量が最も大きいもの、
2:38:53	抽出するんですけども、そちらの
2:38:55	どちらで選ばれる、kt1 イワイを 1 といったシミュレーション対象候補対象となる。
2:39:01	降下火砕物に変更はございません。
2:39:04	すいません。本編資料は以上となり、
2:39:08	はい説明ありがとうございました。
2:39:10	ちょっとね、
2:39:13	確認に入るんですけど僕降下火砕物シミュレーションのところで、もう少しわかりやすくならんかなという。
2:39:22	ことを言って、直してくれたんですけど。
2:39:26	230 ページですね。
2:39:29	ねこのやっぱりこのプロセスをねえ。
2:39:35	なかなか説明しづらい言い方をしてるなって思ったんだけど、1 ニワ
2:39:40	除外除外。
2:39:43	除外から残ったものから 3、4 で抽出さらにそれを抽出。
2:39:48	ていう
2:39:52	これもう、もう直してくださいじゃないけど、
2:39:55	どっちかの方がわかりやすいんだよね。
2:39:57	抽出していくようなフローなのか、除外していくような、
2:40:03	でね。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:40:04	それ、それは。うん。いいです。プロセス 1 は、230 ページでこう書いてるんですけども、やってることって言ったら 231 ページの
2:40:16	文献調査及び地質調査の結果から、敷地における降下火砕物の層厚評価が可能な降下火砕物を除外しましたよと。
2:40:29	いうことを、
2:40:32	これを言えばいいのに。
2:40:33	下のA及びBに該当する。
2:40:36	降下火砕物を除外っていうふうに書いてね、何かABとか言わずにもうプロセス 1 そのまま、
2:40:45	そのままここもう書けばいいんじゃないですかって思った 231 の、
2:40:50	お任せします。
2:40:51	で、
2:40:52	これねもう 1 個ねこの文章書かれるとね、何かA及びBに該当する。
2:40:58	該当するか、いけない、及びBっていうと、
2:41:03	Aに該当するもの、及びBに該当するものなのか。
2:41:08	いやいいます。AかつBなのかっていうのが何かこの、
2:41:15	または、
2:41:17	わかんなかったけど、またはまたはが正しいですね。
2:41:21	はい、わかりました。これ結果見たらわかります。プロセス 1 で、わかってるやつはもう層厚がわかってるようなやつはわざわざもう選ぶ必要ないよと。
2:41:30	二つ目で、
2:41:33	プロセス 2 がねえ。
2:41:35	いやわかんなかったのがプロセスに行って、
2:41:38	どうやここではじいてるんです。麻生麻生とか、
2:41:41	これ実はプロセス 1 ではじけるんじゃないのとかね。
2:41:46	うん。
2:41:47	育つわかってるんだったら、その関係がよくわかんなかったけど、
2:41:52	やってることとしては、
2:41:59	はやってることはわかりました。
2:42:03	で、233 で、
2:42:07	このねプロセス 3 っていうのがね多分言葉足らずで分布主軸量で給源から敷地との同程度の距離でっていうやつなんですけど。
2:42:16	これは、
2:42:18	同一火山でっていうことでいいんですか。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:42:22	同一火山のうち、
2:42:24	こういうものを抽出ってこと。
2:42:26	すいません、同一火山を給源とするものでは、
2:42:32	ないですすみませんちょっと。
2:42:35	号機が、
2:42:36	あって残っちゃってるんですけども、この
2:42:40	これは今、プロセス 2 で選ばれてきたものの中で、分布習熟上で、
2:42:46	給源から敷地と同距離という地点の層厚を比較して全部で比較した時に、
2:42:52	一番最大であると。
2:42:54	いうものを選んでいきます。
2:43:01	すいません、235 ページに、
2:43:06	表を示してるんですけども、
2:43:09	その中のプロセス 3 のところに、その層厚書いておまして、
2:43:15	アイソパックで示されると、はい。
2:43:19	50 センチから 100 センチの、創造性の中に位置してしまっているというところでその複数が、その間に、
2:43:28	あるというところで複数テフラが選ばれております。
2:44:23	駒形家の慶応のシートが 50 から 100 点ですけど落ちてるのは、ちょっと注釈に書いてるんですけども、
2:44:34	ちょっと須藤買って、千賀藤曾田線、元にしてる文献の千賀閉じてないものについてはそこを無理やり図学的な処理して、その保管して、
2:44:45	それを閉じて、体積
2:44:47	を算出してるんですけども、
2:44:49	ちょっとこの A と C II につきましては極端に値が、
2:44:54	山本ほかとか、他の文献とちょっと値が違って、そういったところで過大に評価されているというところなので、このプロセス 3 の時点で、
2:45:04	この
2:45:05	敬語手術については、除外するというところで考えていました。
2:45:24	すいません 240 ページの、
2:45:30	上の段の中央
2:45:32	がいかに番目の、
2:45:35	ものが慶応シートのアイソパックになります。
2:45:40	これでもう 1 回説明してください。
2:45:44	とですねこの、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:45:46	赤い線、ちょっとおわかりなるかは、
2:45:49	あれなんですけれども、
2:45:52	赤い線のところは文献で示されている、闘争発電の書かれた範囲なんですけれども、その先青井、
2:45:59	線で、
2:46:02	北方領土の方まで広がっているんですけどこの辺が推定で保管されている。
2:46:09	とせになります。
2:46:13	当社としてはこの部分、過大に評価されているのではないかというふうに判断しておりますので、
2:46:21	はい。
2:46:46	北海道電力の渡部です。これの扱いが、補足説明資料ってご確認いただけますか。
2:46:52	補足説明の 103 ページ。
2:46:56	見ていただきたいんですけど、
2:47:05	コマタタケノアイソパック示されていてこれ町田アライなんですけど、CⅡって青色で示されていて、
2:47:12	結局アイソパックって0より大きい範囲が、1、1ラインで別途書かれてるものでこれを保管した結果ですという話があるのと、
2:47:21	じゃあこの体積ってどれぐらいと見られてんだということかというと 101 ページ。
2:47:26	見ていただきますと、
2:47:28	駒形家の履歴はヤマモト 2014 に基づいて整理しているんですけども、この整理でいくところのコマシートっていうもののマグマ体積が 0.1 立方キロと。
2:47:38	いうふうにされていて、このような小さいものを不動産で閉じた時に過大な、
2:47:45	量紛失碎石にされているっていうのが、著しく乖離がなされているっていうことについて、ここは適切で適用できないんじゃないかという判断を当社としてくださったというところでした。
2:47:56	以上です。
2:48:08	谷です。
2:48:10	最初、私が勘違いしてて、
2:48:14	同一火山で、こっちの方が大きい、要するに同一火山であれば、もう、もう

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:48:23	何ていうんすかね。もう1が一緒なので、そのあとの
2:48:28	何て言うのかな。
2:48:29	クラベれるわけですよ。
2:48:32	厚さが、
2:48:34	あるものとなないものとか、どっちが、
2:48:36	敷地に影響あるかっていうのを一義的にでも、
2:48:41	そうじゃなくて値、
2:48:43	近くって実は 50 センチだけど、
2:48:47	だけど、
2:48:50	作って、50 センチだけどこで外れるっていうのが、
2:48:54	起こり得るような、
2:48:56	フローになってないですか。で、ちょっと思ったんだけど。
2:49:04	これ 100 センチだったら選ばれてんですよ次のステップに。
2:49:08	違うか。主軸城下習熟ワタナベ今選ばれてるのが 50 から 100 っていうのが総じて選ばれてくるんですけども、その選ばれたもので一番近いのってどこかという、
2:49:19	イセ古来羊蹄山になってきます。
2:49:22	ニセコ雷電火山群自体は、噴出物堆積アイソパックが明確に示された知見っていうのが、古い知見で山体近傍に限定されたものぐらいしかない、
2:49:33	近く手厚いっていう観点でいくと、問題なくステッププロセス 3 で羊蹄山が選ばれてきているので、
2:49:39	そういった意味では問題ないんじゃないかと考えてござい
2:49:47	なので、僕が言ってるの北海道の特徴を踏まえると、これでいいんだよっていう、
2:49:52	そういう説明ですか。北海道泊サイトでは、これでいいんだよ。いや、このフローは僕は一般化できるようなフローとしてこれでいいのかなっていう目で見ってたんですけど。
2:50:13	例えば一般化したときに、各火山で残さなかったら、
2:50:18	敷地に近いもので、
2:50:20	例えば 25 から 50 センチみたいなのが落ちちゃって、
2:50:25	近いから影響あり得るのが、
2:50:27	見え、
2:50:28	抽出されてないよねっていうようなものになるけど、今結果論として予定が生きてるからいいものの、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:50:34	そういうふうになってしまうよねってことですかね。
2:50:40	そうですね。
2:50:48	そうです
2:50:50	おそらく結果変わってこないと思うんですけど、一般化したときにどう見えるかっていうのは確かにその通りかと思imasので、もう少し、すいません。
2:50:59	修正、適正化させてください。以上です。
2:51:06	うん。とはいえ会合ではこれでいくんで、
2:52:47	でもですよ、233 ページは比較して、
2:52:53	この 100 センチだったら選ばれるはずだったんだけど、ここのプロセス 3 をその言葉通りに読めば、
2:53:02	だけどもう違反加えて、比較の結果、さらに同一火山を給源とする火山真子は、
2:53:08	オオキを選びまあすって言ってんですよね。
2:53:12	そうなの。
2:53:49	はい。ちょっと。はい。もう少し確認します。
2:54:05	で、あと根井、ちょっと大きな点として、ニセコ、ニセコ雷電のところの 206、206 ページで、
2:54:16	ニセコ雷電はなぜ地下構造を確認したのか、っていうのを、
2:54:23	目標、目的が明確になったんです。
2:54:27	だったんですけど、
2:54:32	活動中心が移動していないか確認することを目的。
2:54:37	にしたっていうのはわかったんだけど、
2:54:39	何で活動中心が移動していないか確認することが大事なのかっていうのが、
2:54:48	わかんない。
2:54:52	です。
2:54:54	これの意味、意味。
2:54:57	ですね。
2:54:59	活動中心が移動したら大変なことが起きるのか。
2:55:05	或いは、活動中心が移動したら、
2:55:08	基本の知見と全然違うようなことが起きてると考えて、それを問題になってくるのかとか、
2:55:15	或いは、そうじゃなくって、企業知見で言われているようなことが、
2:55:19	北海道電力として調査をし、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:55:22	した、してみても、既往知見
2:55:25	で言われていることが、
2:55:27	まあまあちゃんと確認できたんだと。
2:55:32	そのうちの一つとして、中心が移動していないことを確認できたのかとか、
2:55:37	ちょっとその辺がね、
2:55:39	ご想像りこいろいろ
2:55:41	働かして考えたんですけど、
2:55:43	どうなんすかね移動中心が確認してい。
2:55:46	井戸。活動中心が移動していないか確認する必要は何なんであるんですか。
2:55:54	サイトウ電力の渡部です。
2:55:56	この考え方としてすいません少し。
2:56:00	字足らずだったかもしれないんですけど、
2:56:03	到達可能性評価というものを実施したのが、過去の火砕流の到達可能性を消化することによって運用期間中の到達可能性を結果評価するっていうやり方なんですけどその時の火砕流火山噴出物の救援が、
2:56:19	地勢であったり、シャクナゲであったり、白川であったりという状況で、
2:56:24	現在の
2:56:25	活動中心はイワオヌプリとなっていてそもそも、置かれている状況が異なっているという状況にあるんですけども、
2:56:33	もしかしたらその岩野国にあるという状況が変わってくるようであれば、
2:56:39	また過去に、
2:56:41	火災を評価したような山体に移動してくるようなことがあるのであれば、やはり注視しなければいけない状況なのじゃないかということを考えて、今、
2:56:51	推定される火山って書いてありますけど当該火山噴出物の給源と推定される火山、当時の火砕流の給源と考えている火山側に、
2:57:01	岩尾から中心が移動してしまってきたりしていないかを確認したいということを目的として据えたものでした。
2:57:10	とあれですかね、わかりづらい。
2:57:14	もう、そもそも現況岩尾ってされてる状況が変わらないかを見ますっていうぐらいの、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:57:20	イメージで書いてたんですけど、ちょっと目的としてやはり合いというか、伝わるものが何のためにやるのかっていう必然性が見えないかなと思ひまして、
2:57:29	もう1を、
2:57:30	考えといたしますか、過去の火災の評価の方にも、その目的の意味を持たせられないかなと考えた次第でした。
2:58:14	そうですねすみません
2:58:17	土肥ヒライスギタというか考え過ぎたのかもしれない
2:58:24	はい。
2:58:25	そうですね。
2:58:27	僕、
2:58:28	目的として現況岩尾が最新の活動だと言われていること、これが、
2:58:35	変わってくるような状況にないのかっていうものをやはり確認するっていうのが目的の方が、
2:58:41	はまると思って、過去の火砕流にプラス挙げると、火砕流の溶岩なのか、ちょっと議論が発散してしまう気がするので、そこに落とし込むのが、
2:58:51	やはりいいのかなと考えました。以上で
2:59:54	すみません規制庁杉井です。何か
2:59:57	何かマグマ供給元が移動していく、何か今後も変わらないみたいになってくると何かモニタリングチェックに聞こえるんですけど、結局これって、
3:00:07	もともと今、一般活動してるのが岩野ぶりと言われてるんで、ちゃんとその真下にマグマだまりがあるということ、その規模もこの程度だということ、
3:00:17	何ていうかその反しないというのを単に確認しましたと。
3:00:21	いうだけで、
3:00:23	それによって過去、火砕流、
3:00:26	宇和ん違う敷地に一番近いところまで来てるのが、何でしたっけ、どうなんだ。
3:00:33	岩尾、地勢とかシャクナゲ、こちらの方で、
3:00:36	というものとも違うんで、
3:00:38	もともとそれですら来てないんですけど、はい。
3:00:41	ちょっと何ていうかですね何か変化があるというかこう映っていないかみたいになってくると、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

3:00:46	何か常にそこ映らないのかっていうのを、今後も見っていきますというよう なですね。
3:00:52	そんなに何かそう。
3:00:53	毎年見て変わるものなのかっていうのもありますけど、
3:00:57	そこら辺、
3:00:59	何かこう、
3:01:02	念のため、
3:01:04	やってることはわかるんですよ。やって、何を確認したかわかるんで、
3:01:08	ちょっとこう、物が移って行ってないのかっていうのは、
3:01:11	何かここでやることの目的とは少し、
3:01:15	違うんじゃないかなという。
3:01:17	はい。
3:01:18	うん。
3:01:23	そう、そういう地下構造の観点からも確認したっていうだけのような気が するんですが。はい。
3:01:50	はい。
3:01:52	でね。
3:01:55	あと2点ほどちょっとこれは、
3:01:58	あんまり技術的な話じゃないですけど、50 ページが違う。
3:02:02	60 ページ 61 ページで、
3:02:06	何かこれが立地評価のすべての、
3:02:11	評価、
3:02:14	総括みたいな表なんですけど、
3:02:17	これ、
3:02:19	もっと、
3:02:24	せっかくこう集約してるのにコウ。
3:02:27	いっぱい書いてるから、2 ページに渡ってて、いっぱい書いてるのを読 まないと。
3:02:33	わかりにくいんですけど、今こういったね。
3:02:37	説明は多分どっかでちゃんというんでしょうけど、
3:02:41	要約の部分で、要するにこういうことなんですよっていうのがわかるよう なのがあれば、
3:02:46	僕らは最後の
3:02:50	審査においても、そのあとの

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

3:02:53	審査書書く時においてもですね、わかりやすいかなというふうに思っ て、
3:02:58	これ、
3:03:00	何か、1 ページに要約して
3:03:04	細かいこういう報、
3:03:06	話は、例えばニセコ雷電の
3:03:10	給源から敷地方向。
3:03:12	給源から敷地方向以外、
3:03:14	全方向とか、
3:03:15	こんなことが要らない、書かなくても良いような表を、
3:03:19	たら良いいのかなとか思うんですけど。
3:03:23	しかも何か箇条書きをコウ対応されてるんですけど、
3:03:28	以下のことから、何とかで、十分小さいと評価し、されている。
3:03:33	いつ敷地まで到達していないで、
3:03:35	これはさすがにちょっとボーン
3:03:38	以下のことで書かなくていいんじゃないですかって思いましたし、
3:03:43	あとはねえ。
3:03:49	これ、
3:03:51	うん。
3:03:52	立地評価の概要ってこうなんか文章のコウ算段票みたいなのをずっと つけてるんですけど。
3:04:00	これいりますかねというか、
3:04:05	概要であって概要じゃないんですよねっていうのを、前も言ったと思うん ですけど。
3:04:10	これ全部読まないと分かんないんだったらもう資料を読みますよね。普 通、
3:04:17	とかを持ってこう。
3:04:19	付ける目的に応じた、資料作りを起こしていただきたいなっていうのを思 い、
3:05:19	わかりました。これ抜けなく書こうとしたら、こういう、こんな形に今んところ なってて、
3:05:26	北海道電力としてはこれが、
3:05:28	これがようだっていうふうに考えてる。
3:05:31	ですね、わかりました起こりました。
3:05:34	何が必要かっていうのは僕らが

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

3:05:37	指示することでもないと思うので、
3:05:41	考えわかります
3:06:13	成長がなければ、
3:06:18	これで終わり確認終わっていきますけどいいですかね。
3:06:22	北海道電力から何かありますか。
3:06:28	はいそれでは今日のヒアリングを終わりにしたいと思いますどうもお疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。